

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針1 観光まちづくりを主体的に推進する人材育成と体制整備						
1	① 観光まちづくりに対する市民意識の醸成	<p>◆観光まちづくりへの市民の理解を深め、地域が一体となった受入体制の気運を高めるため、観光PRポスターやチラシ等を作成し、市内公共施設、主要集客施設、イベント、展示会場等、市民が多く目に触れる場所に掲示し、広く周知を図る。</p> <p>◆観光まちづくりに主体的に取り組む方々の活動情報を発信する方策を構築するとともに、活動者自らが積極的に情報発信できるよう支援していく。</p>	観光PRポスターやチラシ等の作成	短期 (1～3年)	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名鉄国府宮駅の地下改札前に設置しているデジタルサイネージを活用し、駅を利用する市民や通勤・通学者に向けて稲沢市の観光イベント情報やPR動画を放映した。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢市観光協会公式Instagramアカウントを立ち上げ、稲沢市の様々な魅力情報の発信に取り組んだ。 ・市民と共に稲沢市内の飲食店や特産品の魅力を発信する取組として、Instagram投稿キャンペーン「#いなざわグルメ」を実施した。 	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「るるぶ特別編集 稲沢市」や観光ガイドBOOK「信長と稲沢」を始めとする観光パンフレット、「勝幡城跡」御城印を始めとするPRツール、デジタルサイネージ等の広報媒体を活用した市民啓発に努めるとともに、いなざわ観光まちづくりラボの活動を通じて、地域を巻き込んだ観光まちづくり事業を進めていく。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢市観光協会公式Instagram及び稲沢市キャンペーン・レディーInstagramの投稿内容について、市民を含め、より多くの方々に稲沢市の観光資源の魅力を広めていけるよう発信力の強化に努めていく。
			活動内容の情報発信	短期 (1～3年)	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢市観光協会公式Webサイト内のラボ紹介ページの掲載情報を充実させるとともに、「美濃路稲葉宿元気マルシェ」や「ワンコインチャリティー四季の詩」の開催を始めとするいなざわ観光まちづくりラボのプロジェクト活動を通じて地域や市民の理解を深め、観光まちづくりを担うプレイヤーの拡大に繋げた。 ・いなざわ観光まちづくりラボの活動を通じて市民の興味関心を呼び込み、多様な主体を巻き込んだ観光まちづくり事業へと展開していくため、支援金制度を新たに設けるなど、ラボプロジェクトの具現化に向けた支援に取り組んだ。 <p>【市観光協会(いなざわ観光まちづくりラボ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラボメンバーが中心となって運営する情報ポータルサイト「いいいなざわ」において、ラボメンバーが主催するイベントや市民が自ら取材して入手した稲沢市の隠れた魅力・スポット等の情報を随時発信した。 	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いなざわ観光まちづくりラボの様々なプロジェクト活動を通じて地域や市民を巻き込むことで、観光まちづくりに対する意識の醸成を図り、プレイヤーの裾野を広げていく。
			その他	短期 (1～3年)	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民に稲沢市の観光資源の魅力を知らせるとともに、観光まちづくりに対する市民意識の醸成を図るため、アピタ稲沢店の協力の下、「いなざわ観光まちづくり」を開催した。 (8月26日・27日、2022年2月22日・23日) ・コロナ禍で遠方への旅行が難しい中、地元の魅力を再発見してもらうため、会員事業者やいなざわ観光まちづくりラボメンバー、観光ボランティアガイドとの連携の下、稲沢市の地域資源の魅力(ひと・こと)を体感できる5つの着地型体験プログラムを創出し、市民及び近郊エリア居住者を対象に提供した。 ①苔玉づくり体験 ②イチヨウ染めウールマフラーづくり体験 ③バナナ収穫&ピザ作り体験 ④飛び出す象!!美濃路稲葉宿御宿印手作り体験と美濃路散策 ⑤天下の奇祭”はだか祭”の舞台の由来を知る! <p>【市観光協会(いなざわ観光まちづくりラボ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美濃路稲葉宿周辺エリアの魅力を市民にも広く浸透させるため、いなざわ観光まちづくりラボメンバーが立ち上げた「美濃路稲葉宿元気プロジェクト」との協働により、御宿印の販売やマルシェの開催等に取り組んだ。 	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いなざわ観光まちづくり」を定期開催していく。 ★目標/年2回開催 ・テーマ別、季節別、ターゲット別に稲沢市の地域資源を組み合わせた日帰りモニターバスツアーを企画し、市民及び近郊エリア居住者を対象に提供する。 ★目標/年間4本設定(四半期ごと) ・現地集合解散型体験プログラムを新たに創出し、市民及び近郊エリア居住者を対象に提供する。 ★目標/年間10プログラム設定
1	② 観光まちづくり推進体制の整備	◆観光まちづくりを持続的に推進していくための推進組織として、稲沢市観光協会をファシリテーターとし、市民、事業者、団体等の多様な関係者による協働ネットワークで構成される観光まちづくりプラットフォーム「(仮称)いなざわ観光まちづくりラボ」を設置する。	「いなざわ観光まちづくりラボ」の立ち上げ	短期 (1～3年)	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年7月4日に「いなざわ観光まちづくりラボ」を設置。 (設立時メンバー数: 46人) (設立時プロジェクト数: 4プロジェクト) 	—

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針1 観光まちづくりを主体的に推進する人材育成と体制整備						
1	③ 観光協会の組織・機能強化	<p>◆稲沢市観光協会が持続的な観光まちづくりを推進する上で中核を担える存在となるよう、事業内容の整理や職員の適正配置、行政や関係機関・団体との連携を強化することで組織体制の充実を図る。</p> <p>◆「(仮称)いなざわ観光まちづくりラボ」のファシリテーターとして、市民との協働によって地域の多様な魅力を掘り起こし、プロジェクトの企画立案を实践(アクション)につなげていく。</p> <p>◆本市ならではの観光メニューを活かした誘客促進を図り、適切な集客・販売ルートにより地域経済の活性化に向けた仕組みを構築する。</p> <p>◆ターゲットを絞った戦略的な観光プロモーションを展開し、本市への来訪意欲を促すことで、消費意欲の喚起を図っていく。</p> <p>◆効果的な自主事業の展開により収入と会員の増加を図り、自主財源を確保することで経営基盤を強化し、将来的に旅行業資格の取得及び法人化移行による独立採算経営の可能性について検討していく。</p>	「いなざわ観光まちづくりラボ」の運営 重点アクションプラン	短期 (1～3年)	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会議を約2か月に1回のペースで開催(現地・オンライン併用)し、意見交換やプロジェクトの提案など、活発な情報交換を行った。また、稲沢市観光協会公式Webサイト内のラボメンバー専用交流ページを通じてメンバー間の情報共有を図り、コロナ禍においてもプロジェクト活動が行えるよう取り組んだ。 ・組織運営面での自主性、自立性の向上を目指し、ラボのファシリテーターの役割を稲沢市観光協会とラボの中心メンバーが引き続き協働で担った。 ・ラボ活動(プロジェクト)に対する支援措置(支援金制度)を新たに設け、募集・審査した結果、「美濃路稲葉宿元気プロジェクト」と「地域資源の見える化を図るプロジェクト」の2つのプロジェクトを採択した。 ・稲沢市観光協会が取り組む事業を魅力的かつ効果的に展開していくため、ラボメンバーに各種事業への参画を呼び掛け、個々の持つ知識や経験、ノウハウの活用に努めた。 ・市民を中心とした観光まちづくりの更なる推進及び活動の活性化、ラボメンバーのスキルアップ及びメンバー間のネットワークづくり、新たなプロジェクトの企画立案及び継続性のあるプロジェクトづくりに繋げることを目的として、稲沢市観光協会主催で「実践!観光まちづくり講座」を新たに開設した。 <p>(2月末時点メンバー数:70人) (2月末時点進行プロジェクト数:15プロジェクト)</p>	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会議を2か月毎に定期開催し、意見交換やプロジェクトの提案など、情報交換を行っていった。また、コロナ禍においてもプロジェクトの具現化に向けた活発な活動が行えるよう、支援金制度やオンライン相談を始め、様々な支援措置を講じていく。 ・多様な主体の巻き込みとネットワークづくりを推進していくことで、新たなメンバーの獲得とプロジェクトの立ち上げに繋げていく。 ・新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、ラボメンバー参加型の観光まちづくり先進地視察を実施する。 <p>★目標／ 2022年度末時点メンバー数:80人 2022年度末時点プロジェクト数:18プロジェクト</p>
			関係機関・団体と連携した観光メニューの創出	短期 (1～3年)	<p>【市・市観光協会・稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢商工会議所が主催する「稲沢まちゼミ」(得する街のゼミナール)に参加し、着地型観光プラン「ぎんなんマイスターになろう!」を昨年度に引き続き実施した。イチヨウ黄葉のガイド付き散策に加え、祖父江町商工会とJA愛知西の協力を得て、ぎんなん落とし体験を新たにプログラムへ取り入れた。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員事業者やいなざわ観光まちづくりラボメンバー、観光ボランティアガイドとの連携の下、市内及び近郊エリアをターゲットとした5つの着地型観光プログラムを創出し、商品化に取り組んだ。 ①苔玉づくり体験 (参加者数:10人) ②イチヨウ染めウールマフラーづくり体験 (参加者数:12人) ③バナナ収穫&ピザ作り体験 (参加者数:115人) ④飛び出す象!!美濃路稲葉宿御宿印手作り体験と美濃路散策 (参加者数:13人) ⑤天下の奇祭”はだか祭”の舞台の由来を知る! (参加者数:12人) 	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美濃路街道連携協議会の加盟自治体や信長公ゆかりの資源を有する近隣市町(愛西市、津島市、清須市など)を始め、本市と共通のテーマ・資源を持つ地域と連携した観光メニューを創出することで、相乗的な誘客を目指す。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節別、テーマ別に様々な関係機関・団体と連携を図り、新たな観光メニューの創出を図る。 ・商工会議所・商工会と連携し、地元企業・事業者の協力による産業観光メニューの創出を目指す。 <p>【市・市観光協会・祖父江町商工会・農工商業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖父江ぎんなんパークを活用し、イチヨウの花の観察やぎんなん収穫体験など、イチヨウ黄葉見学以外の新たな楽しみ方を提案していく。
			観光協会における職員適正配置	中期 (3～5年)	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員5名体制で、①いなざわ観光まちづくりラボの運営サポート及びプロジェクトの実現に向けたコーディネート業務、②関係機関・団体と連携した観光メニューの創出、③公式Webサイト等を活用した情報発信の強化、④新たな観光ルートや広域観光ルートの創出、⑤マーケティング分析に基づいた戦略的な観光プロモーションの実施など、「稲沢市観光まちづくりビジョン」の具現化に向けて取り組んだ。 	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光コーディネーターを中心に5名体制で、引き続き「稲沢市観光まちづくりビジョン」の具現化に向けて取り組んでいく。職員それぞれが協会に求められているミッション、役割を十分に理解し、活動領域を広げていく。 ・市と協会との連携強化と情報共有のため、「稲沢市観光まちづくりビジョン」の進行管理、具体的なアクションプランの検討、関係団体への働きかけと役割分担等を協議する場として、「アクションプラン推進会議(仮称)」を新たに設置し、毎月開催していく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針1 観光まちづくりを主体的に推進する人材育成と体制整備						
			適切な集客・販売ルートの拡充	中期 (3～5年)	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知・名古屋観光誘客協議会への参画を通じて、旅行事業者に「現地ガイドと巡る信長公生誕の地・勝幡城跡」「ぎんなんマイスターになろう！祖父江イチョウ黄葉ガイド付き散策」「パッションフルーツ収穫とバナナアイスづくり体験」など、稲沢市の観光素材を活用した特別企画等を提案した。また、同協議会が主催する観光商談会（オンライン）に参加し、本市の企画を組み入れた旅行商品の造成を働き掛けた。 ・愛西市及び愛西市観光協会と共同で「信長公生誕の地・勝幡城跡」のPR活動を展開した。 ①「サムライ・ニンジャフェスティバル2021」に出展。 (11月21日/県営都市公園大高緑地) (御城印の販売など) ②「お城EXPO 2021」に出展。 (12月18日・19日/パシフィコ横浜ノース) (来場記念特別御城印の販売、勝幡城CG復元動画の放映など) ③「にっぽん城まつり2022 feat.出張！お城EXPO in愛知」に出展。 (2022年3月19日・20日/Aichi Sky Expo) (来場記念特別御城印の販売、信長ゆかりの地を巡るバスツアーの募集告知など) <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内及び近郊の地域資源を深掘りした日帰りバスツアーを2本実施した。 ①今も息づく信長の“大うつけ魂”を訪ねる旅 (11月2日 催行) (参加者数:18人) ②稲沢の自慢スポットを巡る旅 (11月26日 催行) (参加者数:20人) 	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光商談会や観光展等への参加を通じて旅行事業者を始めとする観光関係者との関係強化に努めるとともに、本市の観光素材を積極的に売り込み、新たな旅行商品の造成を働き掛けていく。 ・武将、お城、街道をテーマとするイベント等に出展し、織田信長公や勝幡城跡、美濃路に興味関心の高いターゲット層へのアプローチを積極的に仕掛けていく。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ性のあるバスツアーや着地型体験プログラムなど、地域資源と来訪者ニーズ、旅行形態をマッチングさせた企画商品を展開する観光事業者へのアプローチにより、販売ルートの拡充を図っていく。
			戦略的な観光プロモーションの実現 (再掲あり)	中期 (3～5年)	⇒ <基本方針3> アクションプラン①「観光資源の価値と理解を深めるプロモーションの強化」・主な取り組み「戦略的な観光プロモーション」を参照。	⇒ <基本方針3> アクションプラン①「観光資源の価値と理解を深めるプロモーションの強化」・主な取り組み「戦略的な観光プロモーション」を参照。
			自主事業の推進による独立性の確保	長期 (5年以上)	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存会員の確保と新規会員の獲得に繋げる取組の一つとして、「稲沢カフェ・スイーツ」情報誌の制作に取り組んだ。 ・「いなっピーグッズ」や武将観光関連グッズ(御城印等)の販売に加え、いなざわ観光まちづくりメンバーの発案による日本初の飛び出す象!!「美濃路稲葉宿御宿印」の制作に取り組み、美濃路稲葉宿本陣跡ひろば周辺の10店舗で販売し、収益確保に努めた。 	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員が加入メリットを実感できる事業を継続的に展開することで、既存会員の確保と新規会員の獲得に繋げる。その一つとして、いなざわ観光まちづくりメンバーである市内在住YouTuberと連携し、会員紹介動画の撮影及びYouTube配信を検討する。 ・公式Webサイトへの有料バナー広告の導入を検討し、新たな自主財源の確保を目指す。
			法人化移行の検討	長期 (5年以上)	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な検討に至らず。 	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進地域の現状や組織のあり方について、調査研究を進めていく。 ・「稲沢市観光まちづくりビジョン」に位置付けられた市観光協会の役割を果たしていくために組織として何が必要かを見定めていく過程で、法人化の必要性を慎重に検討していく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針1 観光まちづくりを主体的に推進する人材育成と体制整備						
1	④ 観光受入体制(おもてなし環境・おもてなし体制)の整備	<p>◆国内外からの来訪者に対応するため、行政、市民、観光関係者が連携して、「おもてなし意識」の醸成や観光関連施設等の「おもてなし環境」を整備する。</p> <p>◆おもてなしの第一線で活躍する観光人材の育成に向けて、本市の歴史や文化、ガイドとしての心得等を学ぶ観光ボランティアガイド育成講座を継続的に開催するほか、市民や観光事業者が本市の魅力やおもてなしの作法等を学ぶことができる「おもてなし」講座や研修会を開催する。</p> <p>◆情報提供や人の交流などの機能を持ったおもてなしの施設づくりも併せて検討し、来訪・交流人口の拡大とリーダーの確保を図る。</p>	観光ボランティアガイドの育成及び主体的な活動の支援	短期 (1～3年)	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祖父江イチョウ黄葉ガイド付き散策」の要請に備え、ガイド研修を7月、10月、11月に計3回開催した。 ・美濃路稲葉宿での観光ガイドの実施に向けて、11月9日と12月10日に観光ボランティア研修で美濃路起宿(一宮市尾西歴史民俗資料館ほか)を訪問し、美濃路の歴史について学んだ。また、10月18日、10月28日、11月6日に着地型体験プログラム「美濃路稲葉宿御宿印づくりと美濃路散策」を設定し、現地での実践と育成の場とした。 	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢市内の主要な観光スポットにおけるガイド体制を整備するため、人材の育成と確保に取り組んでいく。 ・市内観光資源に関する知識習得のため、稲沢市ふるさとガイドの会とも連携し、現地研修会の開催や案内マニュアルの作成に取り組む <p>★目標／ 各地域別にガイド案内できる体制づくり(ガイドの募集、育成)</p> <p>①祖父江イチョウ黄葉散策(既存3人+新規3人以上) ②美濃路稲葉宿周辺散策(既存1人+新規3人以上) ③勝幡城跡・信長ゆかりの地(既存2人+新規2人以上) ④矢合観音・国分寺周辺散策(既存1人+新規2人以上)</p>
			「おもてなし」講座や研修会の開催	短期 (1～3年)	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティアが愛知県観光協会が主催するガイド研修会に参加し、他地域の先進事例や観光客へのおもてなし手法、接客対応等について学んだ。 (2022年2月4日開催「産業観光あないびと育成事業オンラインセミナー」など) <p>【市観光協会(いなざわ観光まちづくりラボ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いなざわ観光まちづくりラボのメンバー4名が愛知県が主催する「あいち観光まちづくりゼミ」へ参加し、他地域の観光関係者との交流活動を通じて、おもてなし手法や地域資源の発掘やプランづくりについて学んだ。またメンバーが現地視察や度重なる企画打合せを行った結果、提案したバスプラン「現代版ノブナガ・大うつけに突撃！夢は尾州にあり！」が愛知県観光協会会長賞に選ばれた。 	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般市民も対象とした「おもてなし」講座や研修会を企画し、参加者の中から新たなボランティアガイドを募っていく。 ・観光ボランティアやいなざわ観光まちづくりラボメンバーに「あいち観光まちづくりゼミ」や様々な研修等への参加を促し、他地域の観光関係者から参考となるおもてなし手法や地域資源の発掘・プランづくりのノウハウ習得に繋げる。
			観光案内看板や施設内誘導看板などの整備	短期 (1～3年)	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美濃路稲葉宿本陣跡ひろばに駐車場誘導看板、ひろば利用案内看板及び入口案内看板を設置した。 ・稲沢駅前ほか市内5か所に設置されている観光案内板の定期修繕を行った。また、市内松下一丁目に設置されている「尾張学校院址」「尾張国衙址」及び「赤染衛門歌碑公園」の案内看板が経年劣化したため、修繕を行った。 	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の美濃路ルート上に路面標示案内シートを設置する。 ・観光案内看板等の設置状況を再点検し、必要に応じて修繕等を行う。
			文化財の案内看板の拡充	短期 (1～3年)	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳円寺所有文化財の駒札(案内看板)の修繕を行った。 ・北市場の市指定文化財「山車」の駒札(案内看板)の修繕を行った。 ・古い物は全て文化財との考えの下、地域から看板の設置依頼が度々あり、対応に苦慮している。 	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財所有者と協力し、文化財標柱等の適切な維持・管理に努めるとともに、必要に応じて修繕等を行う。
			観光パンフレット設置場所の充実	短期 (1～3年)	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アピタ稲沢店や稲沢市観光協会の会員店舗の協力を得て、各店内に観光パンフレットやチラシを置かせてもらった。また、愛知県観光協会や近隣の観光協会、愛知県図書館、知多半島道路の大府・阿久比パーキングエリア等に定期的に観光パンフレットを提供した。 	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「るるぶ特別編集稲沢市」や観光ガイドBOOK「信長と稲沢」、新たに作成した「稲沢カフェ・スイーツ」情報誌など、稲沢市の観光パンフレットを多くの人に見てもらい、来訪又は周遊のきっかけにしようため、既存の設置場所を維持しつつ、新規拡充を図っていく。 また、市観光協会の会員や関係組織・団体に加え、民間施設に対しても観光パンフレットの設置協力を求めていく。 <p>★目標／観光パンフレット設置場所の拡大 近隣の観光協会、道の駅、主要観光施設、名鉄・JRの主要駅、郵便局、病院、理美容院、協会会員(店舗、企業・事業者)、ショッピングモール、コンビニ等</p>

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針1 観光まちづくりを主体的に推進する人材育成と体制整備						
			デジタルサイネージの設置と活用	短期 (1～3年)	【市・市観光協会】 ・稲沢市の主要玄関口である名鉄国府宮駅の地下改札前に設置しているデジタルサイネージを活用し、駅利用者に向けて本市の観光・イベント情報や観光PR動画などを発信した。 【市】 ・稲沢市の魅力発信ツールとして広く活用するため、庁内及び関係機関・団体等に対して利用を呼び掛けた。	【市】 ・デジタルサイネージを活用した観光情報の発信を引き続き積極的に行い、市内観光スポットへの誘導に繋げていく。
			観光関連施設におけるWi-Fi環境の整備 (再掲あり)	中期 (3～5年)	【市】 ・「稲沢イルミネーション」のイベント会場、イチョウ黄葉期間中の祖父江ぎんなんパーク及び「いなざわ梅まつり」会場において、来場者サービスの一環として無料Wi-Fiスポットを開設した。	【市】 ・毎年多くの観光客が見込まれる祭り・イベントにおいて、来場者サービスの一環として会場内に無料Wi-Fiスポットを開設する。現地からタイムリーな情報を発信し、拡散を促すことで、更なる観光誘客に繋げていく。
			まち歩きアプリの活用	中期 (3～5年)	【市観光協会】 ・「稲沢カフェ・スイーツ」情報誌の作成に合わせ、同誌を活用したデジタルスタンプラリーの実施検討を進めている。	【市観光協会】 ・2021年度に作成した「稲沢カフェ・スイーツ」情報誌と連動したデジタルスタンプラリーを実施する。実施に際し、スタンプラリー参加者の動向分析も合わせて行う。
			観光案内所の設置検討	長期 (5年以上)	【市・市観光協会】 ・具体的な検討に至らず。	【市・市観光協会】 ・美濃路稲葉宿本陣跡ひろばの建物について、案内所的な機能を含め、観光ボランティアの拠点施設として活用できるよう具体的な検討を進めていく。
1	⑤ 外国人観光客の受入体制の整備	◆外国人観光客の観光ニーズは多様であり、国籍・文化・宗教等によりきめ細かな対応や受入側の理解が必要になるため、本市の持つ地域資源や文化に対して関心が高い国や属性等について、各種調査等を通じて継続的な把握に努める。 ◆多言語表記の観光案内看板の設置や多言語に対応した案内ボランティアの研修等を実施する。	各種調査等による外国人観光客の実態把握	中期 (3～5年)	未実施	【市・市観光協会】 ・アフターコロナにおけるインバウンド需要の回復を見据え、国や県が実施した外国人観光客の動向調査結果を分析するとともに、本市の実態を把握する手法の検討を進める。 ・外国人観光客の受入に向けた取組事項等を整理の上、推進計画の作成に取り組む(ターゲット設定、コンテンツづくり、外国人案内ガイドとのネットワークづくり等)。
			多言語表記の観光案内看板や施設内誘導看板などの整備	中期 (3～5年)	【市】 ・新規整備なし	【市観光協会】 ・稲沢市観光協会公式Webサイトのコンテンツ充実にも努める中で、外国人観光客を意識したページづくりにも取り組んでいく。 【祖父江町商工会】 ・「そぶえイチョウ黄葉まつり」への外国人観光客の受入れを視野に入れ、多言語案内看板の設置や多言語対応可能なWebサイトの開設等を検討していく。
			多言語観光ボランティアガイド育成の検討	中期 (3～5年)	実施なし	【市観光協会】 ・当面は国内観光客向けのガイド体制の整備を優先し、人材の育成と確保に取り組んでいく。
			飲食店や宿泊施設などにおける多言語表記の啓発	中期 (3～5年)	未実施	【市・市観光協会】 ・啓発方法について検討していく。
			まち歩きアプリと多言語ガイドブックの活用	中期 (3～5年)	実施なし	【市・市観光協会】 ・稲沢市観光ガイドブックの多言語化(英語版以外の発行)を検討していく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針2 稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光・交流メニューの創出						
2	① 地域資源の活用と新たな観光資源の発掘	<p>◆従来の観光資源(国府宮はだか祭をはじめとした祭り・イベント、桜、アジサイ、イチョウ黄葉等)に加え、自然、文化、歴史、産業、環境、健康、スポーツなどの様々な地域資源を掘り起こし、これらを活用し、つなぎ、磨き上げることによって、年間を通じて本市の魅力を体験できる着地型観光メニューを創出していく。</p> <p>◆メニューの創出にあたっては、各地域資源の歴史的背景やこだわりを“ヒト”との交流により伝えていくことで、新たな付加価値を生み出し、満足度の向上を目指す。</p>	<p>既存イベントにおける連携強化(再掲あり)</p> <p>地域資源の掘り起こしと活用方法の検討</p>	<p>短期 (1~3年)</p> <p>中期 (3~5年)</p>	<p>⇒ <基本方針2> アクションプラン⑩「四季の地域資源を活用したまつり・イベントの開催」・主な取り組み「既存イベントにおける連携強化」を参照。</p> <p>【市】 ・「祖父江ぎんなん」ブランドの強化・確立、「ぎんなん・歴史・健康」をテーマとした多彩な交流、イチョウ黄葉散策が楽しめる公園として、「祖父江ぎんなんパーク」が2021年6月にオープンした。</p> <p>【祖父江町商工会】 ・地域資源「イチョウ・ぎんなん」を活用した通年型商品の開発を検討するため、2020年度まで国の補助事業等を活用して調査・研究を行ってきた。しかし、2021年度から新規性・斬新性に加えて、確実に商品化できる事業者との連携が求められるようになり、一旦休止して連携先の模索や新たな補助制度などの検討を行っている。</p> <p>【市観光協会】 ・祖父江ぎんなんパークにおいて、「祖父江ぎんなんマルシェ」への出展や稲沢まちゼミでの「ぎんなんマイスターになろう！」など、来訪者にイチョウ黄葉の魅力を体感してもらえる取組を行った。</p> <p>・「信長公生誕の地・勝幡城跡」をPRするため、御城印を稲沢市観光協会ほか市内2カ所で開催開始したほか、「お城EXPO 2021」及び「につぼん城まつり2022 feat.出張！お城EXPO in 愛知」で来場記念特別御城印を販売した。また、現存しない勝幡城の姿を可視化したCG復元動画を制作し、武将・お城をテーマとした観光イベント等でのPRに活用した。</p> <p>・市内及び近郊の地域資源を深掘りした日帰りバスツアーを2本実施した。 ①今も息づく信長の“大うつけ魂”を訪ねる旅 (11月2日開催) (参加者数:18人) ②稲沢の自慢スポットを巡る旅 (11月26日開催) (参加者数:20人)</p> <p>・美濃路稲葉宿の活性化を図るため、いなざわ観光まちづくりラボメンバーの発案による日本初の飛び出す象!!「美濃路稲葉宿御宿印」の制作に取り組み、美濃路稲葉宿本陣跡ひろば周辺の10店舗で販売した。</p> <p>【市・市観光協会・大学】 ・足立学園総合研究所と稲沢市、稲沢市観光協会が連携し、かつて美濃路稲葉宿が置かれた稲沢市の魅力を再発見するイベント「稲沢再発見 稲葉宿で歴史を語る」を美濃路稲葉宿本陣跡ひろばで開催した。今年度は「美濃路の魅力で語る」と題し、いなざわ観光まちづくりラボメンバーが美濃路の魅力で落語や紙芝居を使って語った。当日の様子はイベント終了後、YouTubeでオンライン配信された。 (11月27日) (来場者数:45人)</p> <p>【市観光協会(いなざわ観光まちづくりラボ)】 ・美濃路稲葉宿本陣跡ひろばを有効活用するため、ラボメンバーが主体となり、「ワンコインチャリティー四季の詩」(4月16日)と「美濃路稲葉宿元気マルシェ」(10月16日、2022年1月22日)を開催した。</p> <p>・「地域資源の見える化を図る」プロジェクトの取組として、今まであまり注目されてこなかった市内の地域資源にスポットを当て、その魅力を動画撮影しYouTube上で配信した。 ①稲沢サンドフェスタ(砂の造形展)における砂像制作過程 ②「今も息づく信長の“うつけ魂”を訪ねる旅」バスツアーの様子(勝幡城跡、椿園、稲沢サンドフェスタ(砂の造形展)、性海寺、尾張大國霊神社) ③「稲沢の自慢スポットを巡る旅」バスツアーの様子(祖父江イチョウ黄葉散策、善光寺東海別院、稲沢フルーツ園、サリオパーク祖父江) ④美濃路稲葉宿御宿印手作り体験及び美濃路稲葉宿周辺散策の様子</p>	<p>⇒ <基本方針2> アクションプラン⑩「四季の地域資源を活用したまつり・イベントの開催」・主な取り組み「既存イベントにおける連携強化」を参照。</p> <p>【市・市観光協会・祖父江町商工会・JA愛知西・農商工業者】 ・祖父江ぎんなんパークにおいて、「そぶえイチョウ黄葉まつり」「祖父江ぎんなんマルシェ」の会場活用を始め、「ぎんなん・歴史・健康」をテーマに幅広い世代の人々が訪れ、多彩な交流が図れる拠点づくりを進め、「祖父江ぎんなん」ブランドの更なる向上を目指す。</p> <p>【市・市観光協会】 ・「祖父江ぎんなん街道」の認知度を高め、現地への誘客に繋げるため、関係者に観光面での活用を働き掛ける。</p> <p>【祖父江町商工会】 ・「祖父江ぎんなん街道」の認定を活用して、ぎんなんを使った菓子、料理を始め、黄金色に染まる景色を楽しんでもらえるよう情報発信に努めていく。</p> <p>・地域資源「イチョウ・ぎんなん」の更なる掘り起こし、高齢化・後継者不足による生産者減少の食い止め、銀杏の小粒化・不作を補完する通年型商品開発への対応に努めていく。これまでの調査・研究の結果を基に、引き続き各団体と広く意見交換を行っていく。</p> <p>【市観光協会】 ・観光資源の有効活用に向けて、来訪者視点を踏まえた積極的な提言を行っていく。具体的には、イベントの集客効果を相乗的に高めるため、「稲沢サンドフェスタ」と「そぶえイチョウ黄葉まつり」の開催期間を重ねることができないか、関係者に検討を働きかけていく。</p> <p>・「信長公生誕の地・勝幡城」をPRするための販売グッズとして、新たに「信長公武将印」の作成に取り組み。また、イベント会場で城のかつての姿を分かりやすく説明するため、持ち運び可能な展示用「勝幡城推定復元模型」の制作を検討していく。</p> <p>・美濃路稲葉宿の魅力を高め、誘客を促進するためのツールとして、引き続き御宿印の販売に取り組んでいく。</p> <p>・テーマ別、季節別、ターゲット別に稲沢市の地域資源を組み合わせた日帰りモニターバスツアーを企画し、市内及び近郊エリアからの誘客に取り組む。 ★目標/年間4本設定(四半期ごと)</p>

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針2 稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光・交流メニューの創出						
			着地型観光メニューの創出	中期 (3～5年)	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖父江イチヨウ黄葉の時期に、ぎんなん生産者宅でのイチヨウ原木の見学とぎんなん試食体験を行う特別企画を旅行事業者に提案した。 <p>【市・市観光協会・稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢商工会議所が主催する「稲沢まちゼミ」(得する街のゼミナール)に参加し、着地型観光プラン「ぎんなんマイスターになろう!」を昨年度に引き続き実施した。イチヨウ黄葉のガイド付き散策に加え、祖父江町商工会とJA愛知西の協力を得て、ぎんなん落とし体験を新たにプログラムへ取り入れた。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で遠方への旅行が難しい中、地元の魅力を再発見してもらうため、会員事業者やいなざわ観光まちづくりラボメンバー、観光ボランティアガイドとの連携の下、稲沢市の地域資源の魅力(ひと・もの・こと)を体感できる5つの着地型体験プログラムを創出し、市内及び近郊エリアからの誘客に取り組んだ。 ①苔玉づくり体験 (参加者10人) ②イチヨウ染めウールマフラーづくり体験 (参加者12人) ③バナナ収穫&ピザ作り体験 (参加者115人) ④飛び出す象!!美濃路稲葉宿御宿印手作り体験と美濃路散策 (参加者13人) ⑤天下の奇祭”はだか祭”の舞台の由来を知る! (参加者12人) <p>【市・市観光協会・農商工事業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知・名古屋観光誘客協議会が夏期に展開した「あいち冷やし旅」キャンペーンに参画し、稲沢フルーツ園が「パッションフルーツ収穫とバナナアイスづくり体験」を提供した。 <p>【市・市観光協会・農商工事業者・市民団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サリオパーク祖父江でのアクティビティ体験や農園見学・収穫体験などについて、2022年度からの新たな観光メニューとして活用できるよう関係者と連携して準備を進めた。 	<p>【市・市観光協会・祖父江町商工会・農商工事業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖父江ぎんなんパークを活用し、イチヨウの花の観察やぎんなん収穫体験など、イチヨウ黄葉見学以外の新たな楽しみ方を提案していく。 <p>【市・市観光協会・市民団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サリオパーク祖父江でのアクティビティ体験について、観光メニューとしての活用を図り、商品化に繋げる。また、流通ルートを開拓し、若者やファミリー層を主要なターゲットとして誘客を図る。加えて、いなざわ観光まちづくりラボとの協働により、新たなメニューの創出にも取り組んでいく。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢市の地域資源を活用した着地型体験プログラムを新たに創出し、市内及び近郊エリアからの誘客に取り組む。 <p>★目標/年間10プログラム設定</p>
			国府宮はだか祭体験参加プログラムの検討	中期 (3～5年)	コロナ禍で具体的な検討に至らず。	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスが収束した際には、「お宿 和陽館」が提供する「国府宮はだか祭参加プラン」について、各種広報媒体を通じて発信していく。併せて、他の実施方法についても研究していく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針2 稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光・交流メニューの創出						
2	② 観光ルートの創出・ストーリーづくり	◆年齢、性別、グループといった基本属性、テーマ、季節など、マーケットのニーズに応じて様々な観光資源をつなげたモデルルートを創出する。	サリオパーク祖父江と善光寺東海別院等の周辺施設を組み合わせた観光ルートの設定（再掲あり）	短期 （1～3年）	⇒ <基本方針2> アクションプランの「サリオパーク祖父江を核とした体験型観光の推進」・主な取り組み「サリオパーク祖父江と善光寺東海別院等の周辺施設を組み合わせた観光ルートの設定」を参照。	⇒ <基本方針2> アクションプランの「サリオパーク祖父江を核とした体験型観光の推進」・主な取り組み「サリオパーク祖父江と善光寺東海別院等の周辺施設を組み合わせた観光ルートの設定」を参照。
			自然と歴史文化を組み合わせた観光ルートの設定	短期 （1～3年）	【市観光協会】 ・「稲沢の自慢スポットを巡る旅」と題して、祖父江イチョウ黄葉、サリオパーク祖父江、稲沢フルーツ園、尾張大國霊神社、善光寺東海別院、稲沢市荻須記念美術館（特別展観覧）など、秋の稲沢ならではの自慢スポットを巡るバスツアーを実施した。 （11月26日開催）（参加者数：20人） ・祖父江イチョウ黄葉のPRIに際し、稲沢市荻須記念美術館、善光寺東海別院、ぎんなん料理店等と組み合わせた観光ルートを設定し、観光商談会（オンライン）の際に旅行事業者へ提案した。 【市観光協会（いなざわ観光まちづくりラボ）】 ・「いなざわ梅まつり」の開催に合わせて、矢合地区内の文化財や梅園等の名所を巡りながら楽しくウォーキングするイベント「やわせてくウォーキング」をラボ主催で実施する。 （2022年3月7日開催予定）	【市観光協会】 ・季節毎の花や風景、祭り、美濃路や勝幡城跡、神社・仏閣等の歴史文化を組み合わせたテーマ性やストーリー性のある観光ルートを創出し、稲沢市観光協会の公式Webサイト内で紹介することで、来訪者のサービス向上に繋げるとともに、同ルートを組み込んだ日帰りモニターバスツアーを企画することで、観光関係者の二次活用を繋げていく。 ★目標／バスツアー年間4本設定（四半期ごと） 【市観光協会（いなざわ観光まちづくりラボ）】 ・「やわせてくウォーキング」をラボ主催で継続実施する。
			JAFと連携したドライブルートの設定	短期 （1～3年）	・実施なし	【市】 ・「稲沢あじさいまつり」においてJAF会員優待特典を活用することで、自動車ユーザーの誘客に繋げていく。 【市・市観光協会】 ・JAFとの観光連携協定を活用し、新たな周遊ドライブコースの設定及びJAF広報誌等での観光資源のPRIに取り組んでいく。
			武将観光ルートの創出（再掲あり）	中期 （3～5年）	⇒ <基本方針2> アクションプラン③「武将観光の推進」・主な取り組み「武将観光ルートの創出」を参照。	⇒ <基本方針2> アクションプラン③「武将観光の推進」・主な取り組み「武将観光ルートの創出」を参照。
			市内企業・事業者と連携した産業観光ルートの設定（再掲あり）	中期 （3～5年）	⇒ <基本方針2> アクションプラン④「産業観光の推進」・主な取り組み「市内企業・事業者と連携した産業観光ルートの設定」を参照。	⇒ <基本方針2> アクションプラン④「産業観光の推進」・主な取り組み「市内企業・事業者と連携した産業観光ルートの設定」を参照。
			近隣市町と連携した広域周遊ルートの設定	中期 （3～5年）	【市観光協会】 ・愛西市との連携により、勝幡城跡を始めとする両市の信長公ゆかりの地を巡る武将観光バスツアー「すべてはここから始まった！信長の聖地・勝幡城 ～信長が生まれた地を巡る～」を設定（5月22日開催予定）したが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となった（30人参加申込あり）。2022年5月のツアー再実施に向けて、2022年3月19日、20日開催予定の「につぼん城まつり2022 feat.出張！お城EXPO in 愛知」で参加募集の告知を行う。 【市観光協会（いなざわ観光まちづくりラボ）】 ・愛知県が主催する「あいち観光まちづくりゼミ」に参加したラボメンバーが他地域の観光関係者と連携し、戦国時代を席卷した織田信長の「大うつけの革新性を現代に築き、稲沢市・愛西市で活躍する人々を様々な角度から紹介する「現代版ノブナガ・大うつけに突撃！夢は尾州にあり！」プランを提案し、愛知県観光協会賞を受賞した。また、同内容のバスツアー「今も息づく信長の「大うつけ魂を訪ねる旅」を稲沢市観光協会主催で実施した。 （参加者数：18人）	【市観光協会】 ・2022年5月に武将観光バスツアー「すべてはここから始まった！信長の聖地・勝幡城 ～信長が生まれた地を巡る～」を実施する。 ・愛知県が主催する「あいち観光まちづくりゼミ」で培った他地域とのネットワークを活用し、継続的な広域周遊ルートの創出を目指す。 【市・市観光協会】 ・美濃路街道連携協議会の加盟自治体（一宮市など）や信長公ゆかりの資源を有する近隣市町（愛西市、津島市、清須市など）を始め、本市と共通のテーマ・資源を持つ地域と連携し、新たな広域周遊ルートを創出することで、相乗的な誘客を目指す。 ★目標／新たな観光ルートの創出（3ルート）

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針2 稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光・交流メニューの創出						
2	③ 武将観光の推進	<p>◆織田信長の生誕地説が有力である勝幡城を核とし、武将観光イベント等への参加を通じて「(仮称)三英傑の歴史がスタートした地」として本市の魅力を国内外に積極的にPRする。</p> <p>◆取り組みに際しては、有識者や歴史文化の保全・PRIに取り組む地域の方々、武将観光を推進する愛知県や他自治体とも連携を強化し、事業を推進していく。</p>	<p>武将観光関連イベントへの出展・PR</p> <p>「(仮称)三英傑の歴史がスタートした地」プロモーション事業</p> <p>関係機関との連携による武将観光の推進</p> <p>武将観光ルートの創出(再掲)</p>	<p>短期 (1～3年)</p> <p>中期 (3～5年)</p> <p>中期 (3～5年)</p> <p>中期 (3～5年)</p>	<p>【市・市観光協会】</p> <p>・愛西市及び愛西市観光協会と共同で「信長公生誕の地・勝幡城跡」のPRのため、県内外の武将観光・お城観光イベントに積極的に参加した。</p> <p>①「サムライ・ニンジャフェスティバル2021」に出展。 (11月21日/県営都市公園大高緑地) (御城印の販売など)</p> <p>②「お城EXPO 2021」に出展。 (12月18日・19日/パシフィコ横浜ノース) (来場記念特別御城印の販売、勝幡城CG復元動画の放映など)</p> <p>③「につぼん城まつり2022 feat.出張！お城EXPO in愛知」に出展。 (2022年3月19日・20日/Aichi Sky Expo) (来場記念特別御城印の販売、信長ゆかりの地を巡るバスツアーの募集告知など)</p> <p>【市観光協会】</p> <p>・武将観光・お城観光イベントへの出展に加え、8月26日・27日の2日間、アピタ稲沢店で「い～な稲沢まるごと観光展」を開催し、「信長と稲沢」をテーマに「勝幡城跡」の御城印販売のほか、勝幡城CG復元動画の放映や武士の甲冑展示を行い、「信長公生誕の地・勝幡城」のPRに取り組んだ。</p> <p>【市・市観光協会】</p> <p>・愛西市との連携により、武将観光・お城観光イベントへの出展や御城印の販売など、「勝幡城跡」を核とする武将観光・お城観光の推進に取り組んだ。</p> <p>・愛知のお城観光推進協議会でお城観光ガイドブック「百花城乱」が作成され、「勝幡城跡」が信長公ゆかりの城として掲載された。</p> <p>・2023年大河ドラマ「どうする家康」の放送を契機に、「徳川家康ゆかりの地」及び「武将のふるさと愛知」を広く全国に情報発信するとともに、観光振興による地域の活性化を図ることを目的として愛知県が新たに設置した「愛知県大河ドラマ『どうする家康』観光推進協議会」に参画した。</p> <p>【市観光協会】</p> <p>・愛西市との連携により、勝幡城跡を始めとする両市の信長公ゆかりの地を巡る武将観光バスツアー「すべてはここから始まった！信長の聖地・勝幡城 ～信長が生まれた地を巡る～」を設定(5月22日催行予定)したが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となった(30人参加申込あり)。同ツアーについて2022年5月に再実施すべく、2022年3月19日・20日開催予定の「につぼん城まつり2022 feat.出張！お城EXPO in 愛知」で参加募集の告知を行う。</p> <p>【市観光協会(いなざわ観光まちづくりラボ)】</p> <p>・愛知県が主催する「あいち観光まちづくりゼミ」に参加したラボメンバーが他地域の観光関係者と連携し、戦国時代を席卷した織田信長の「大うつけ」の革新性を現代に築き、稲沢市・愛西市で活躍する人々を様々な角度から紹介する「現代版ノブナガ・大うつけに突撃！夢は尾州にあり！」プランを提案し、愛知県観光協会賞を受賞した。また、同内容のバスツアー「今も息づく信長の「大うつけ」魂を訪ねる旅」を稲沢市観光協会主催で実施した。 (参加者数:18人)</p>	<p>【市・市観光協会】</p> <p>・引き続き愛西市及び愛西市観光協会と連携しながら、県内外の武将観光・お城観光イベントに参加する。</p> <p>・観光ガイドBOOK「信長と稲沢」に加え、「勝幡城跡」の御城印販売やCG復元動画を活用しながら、市民や地域の歴史関係者とも連携したインバウンドのあるPR活動を展開していく。</p> <p>【市・市観光協会】</p> <p>・愛知のお城観光推進協議会及び愛知県大河ドラマ「どうする家康」観光推進協議会への参画を通じて、愛知県や愛知県観光協会、県内市町村等と連携した武将観光・お城観光を推進し、「信長公生誕地・稲沢市」の認知度向上と観光誘客に繋がるプロモーション活動を積極的に展開していく。</p> <p>・2023年度NHK大河ドラマ「どうする家康」の放送を見据え、市内の「家康ゆかりの地」を発掘し、PRしていく。</p> <p>【市観光協会】</p> <p>・「信長公生誕の地・勝幡城」を含む近隣エリアの信長公ゆかりの地を巡る新たな観光ルートを創出する。</p> <p>【市・市観光協会】</p> <p>・愛西市との連携を更に深め、両市による御城印販売やPR活動など、勝幡城跡を核とする武将観光・お城観光の取組を引き続き展開していく。</p> <p>・信長公にゆかりのある自治体との関係づくりに取り組むことで、連携した武将観光メニューの創出と将来的な広域連携組織への参画を視野に入れていく。</p> <p>【市・市観光協会・県・県観光協会】</p> <p>・愛知のお城観光推進協議会及び愛知県大河ドラマ「どうする家康」観光推進協議会への参画を通じて、愛知県や愛知県観光協会、県内市町村等と連携した事業を展開し、相乗的な誘客へと繋げていく。</p> <p>【市・市観光協会】</p> <p>・勝幡城推定復元模型と信長親子像を有する愛西市を始め、津島市、清須市など信長公ゆかりの資源を有する近隣市町と連携した新たな観光ルートを創出することで、相乗的な誘客に繋げていく。</p> <p>・愛知のお城観光推進協議会及び愛知県大河ドラマ「どうする家康」観光推進協議会への参画を通じて、愛知県や愛知県観光協会、県内市町村等との連携を強化し、新たな武将観光ルートの創出に繋げる。</p> <p>・創出した武将観光ルートの商品化(バスツアープラン設定)に向けて、愛知・名古屋観光誘客協議会が主催する観光商談会等の場で旅行事業者に提案していく。</p> <p>【市観光協会】</p> <p>・2022年5月に武将観光バスツアー「すべてはここから始まった！信長の聖地・勝幡城 ～信長が生まれた地を巡る～」を実施する。</p>

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針2 稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光・交流メニューの創出						
2	④ 産業観光の推進	<p>◆農商工業に関連する技術や生産地、工業施設など、産業を観光資源として活用し、本市の製品を国内外へPRするとともに、生産者が来訪者と交流することで、産業技術の継承、雇用の確保、新たな製品開発等を促し、地域産業の振興を図る。</p> <p>◆本市の都市イメージとして印象強い「植木産業」をはじめ、本市の地場産業の技術を活用したイベント、伝統技術や最先端の工業技術を活用した体験会・見学会等を観光的側面も含めて実施することで、誘客の促進を図るとともに、本市の優れた製品や技術を国内外にPRする。</p>	見学受入可能施設の掘り起こし	短期 (1～3年)	<p>【稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月から10月にかけて開催した「稲沢まちゼミ」(得する街のゼミナール)やアピタ稲沢店で開催した「会員事業所合同PR展」(2022年2月18日・19日)の参加事業者の中から、産業観光に関わることができる事業者の掘り起こしを行っている。 	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学可能な圃場農園を保有しており、受入意思が確認できた場合は、市の関係団体への所属に関わらず稲沢市公式Webサイトで公表することを検討する。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所、商工会との連携により市内企業・事業者の中から見学受入可能施設を新たに掘り起こし、産業観光体験プランの設定などを働きかけていく。 ★目標／見学受入可能施設の掘り起こし(3施設) <p>【稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「稲沢まちゼミ」等の事業を通じて、事業者の掘り起こしを行う。
			対外的に誇るべき市内企業・事業者の製品や技術に関する情報発信	短期 (1～3年)	<p>【稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢市内の事業所が持つ技術の価値や製品の魅力をPRするため、アピタ稲沢店で「会員事業所合同PR展」を開催した。(2022年2月18日・19日) <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祖父江ぎんなんマルシェ」を開催し、商工会員を中心とした出店者がぎんなんとぎんなん加工品のPR販売を行った。(7月17日、10月16日、11月20日・21日・23日・27日・28日、2022年1月15日) <p>【祖父江ぎんなんブランド推進協議会(JA愛知西・市・市観光協会・県・祖父江町商工会・農商工業者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祖父江ぎんなん」の魅力発信と販売強化による消費拡大及びクレーム防止を目的に、愛知県農業生産力強化支援事業による産地戦略に基づき、「レシピ・保存方法」のリーフレット、「ぎんなんは生鮮食品です」チラシの作成に取り組んだ。 	<p>【稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員事業所の製品・技術を紹介する事業を展開する(内容未定)。 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も市内外の各種イベント・物産展に出店し、市内企業・事業者の持つ製品・技術のPRに努める。 <p>【祖父江ぎんなんブランド推進協議会(JA愛知西・市・市観光協会・県・祖父江町商工会・農商工業者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の公式Webサイトでイベント・販売情報を発信するなど、更なる知名度向上と消費拡大を目指し、地域一体となって「祖父江ぎんなん」の魅力PRしていく。
			市内企業・事業者と連携した産業観光ルート の設定(再掲)	中期 (3～5年)	<p>【平和町商工会・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「へいわさくらまつり」の開催に合わせて「明治なるほどファクトリー愛知」の自由見学会を実施し、来場者に桜ネックレスと一緒に巡る観光ルートを提供しよう企画したが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止した。 	<p>【市観光協会・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に連携実績のある「椿園」「しょうが屋木村」「稲沢フルーツ園」を始め、市内の企業・事業者等と連携して産業観光ルートの創出を図る。 <p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祖父江ぎんなん街道」の認知度を高め、現地への誘客に繋げるため、関係者に観光面での活用を働き掛ける。 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祖父江ぎんなん街道」の認定を活用して、ぎんなんを使った菓子、料理を始め、黄金色に染まる景色を楽しんでもらえるように情報発信に努めていく。 <p>【平和町商工会・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「へいわさくらまつり」の開催に合わせて「明治なるほどファクトリー愛知」の自由見学会について、次年度以降も計画していく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針2 稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光・交流メニューの創出						
			ものづくり体験や収穫体験ができる産業観光メニューの創出	中期 (3～5年)	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「椿園」「内藤醸造」「稲沢フルーツ園」など見学受入可能施設を旅行商品に組み込んでもらえるよう、企画提案資料を作成し、旅行事業者との観光商談会でPRを行った。 <p>【市・市観光協会・稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢商工会議所が主催する「稲沢まちゼミ」(得する街のゼミナール)に参加し、着地型観光プラン「ぎんなんマイスターになるう！」を昨年度に引き続き実施した。イチヨウ黄葉のガイド付き散策に加え、祖父江町商工会とJA愛知西の協力を得て、ぎんなん落とし体験を新たにプログラムへ取り入れた。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で遠方への旅行が難しい中、地元の魅力を再発見してもらうため、会員事業者との連携の下、稲沢市の地域資源の魅力(ひと・もの・こと)を体感できる着地型体験プログラム(苔玉づくり体験、イチヨウ染めウールマフラーづくり体験、バナナ収穫&ピザ作り体験)を創出し、市内及び近郊エリアからの誘客に取り組んだ。 <p>【稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大により、見学受入可能事業所によるツアーを企画する段階で断念した。 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祖父江ぎんなんパーク」を活用し、ぎんなん収穫体験を3回実施した。 	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所、商工会、JA愛知西、いなざわ観光まちづくりラボメンバー等から見学受入可能施設の情報を収集するとともに、それらの施設に対して体験プランの設定を働き掛けている。 <ul style="list-style-type: none"> ・農園見学、収穫体験など個々に実施されているものの、観光メニューとして活用されていないコンテンツが市内に潜在しているため、関係事業者への働き掛けやいなざわ観光まちづくりラボとの連携により、新たなメニューの創出に取り組んでいく。 <p>★目標／ 新たなものづくり体験、収穫体験メニューの創出(3プラン)</p> <p>【市・市観光協会・祖父江町商工会・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖父江ぎんなんパークを活用し、イチヨウの花の観察やぎんなん収穫体験など、イチヨウ黄葉見学以外の新たな楽しみ方を提案していく。 <p>【稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況が好転すれば、工場見学や体験学習会等を実施していく。
			産業観光メニューに関する情報発信	中期 (3～5年)	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明治なるほどファクトリー愛知」を始め、コロナ禍において体験見学等を休止する施設も多く見られ、十分な情報発信が出来なかった。 	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所、商工会との連携により、産業観光に関する情報収集力を高めていく。また、ターゲットに応じて、様々な広報媒体を活用した積極的な情報発信に努めていく。 <p>【稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式Webサイト等、様々な媒体を通じて情報発信していく。 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会の公式WebサイトやTwitter等を有効活用し、情報を随時発信していく。 <p>【平和町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信に努めていく。
2	⑤ 周辺地域との広域連携の推進による誘客促進	<p>◆愛知県や愛知県観光協会のほか、美濃路・木曾川沿線自治体など本市と共通のテーマ・資源を持つ自治体や観光事業者等との連携により観光ルートの創出やイベント・キャンペーンを開催し、エリアとしての誘客を図る。</p> <p>◆本市の地域資源と周辺市町の地域資源を効果的に組み合わせ、広域的に連携することで国内外からの誘客を促進し、来訪・交流人口の拡大による地域経済の活性化につなげる。</p>	広域連携による観光ルートの創出	中期 (3～5年)	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛西市との連携により、勝幡城跡を始めとする両市の信長公ゆかりの地を巡る武将観光ルートを設定した。当ルートを活用したバスツアー「すべてはここから始まった！信長の聖地・勝幡城～信長が生まれた地を巡る～」を企画し、2022年3月19日、20日開催予定の「につぼん城まつり2022 feat.出張！お城EXPO in 愛知」で参加募集の告知を行う。 <p>【市観光協会(いなざわ観光まちづくりラボ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県が主催する「あいち観光まちづくりゼミ」に参加したラボメンバーが他地域の観光関係者と連携し、戦国時代を席卷した織田信長の大うつけの革新性を現代に築き、稲沢市・愛西市で活躍する人々を様々な角度から紹介する「現代版ノブナガ・大うつけに突撃！夢は尾州にあり！」プランを提案し、愛知県観光協会賞を受賞した。また、同内容のバスツアー「今も息づく信長の大うつけ魂を訪ねる旅」を稲沢市観光協会主催で実施した。(参加者数:18人) 	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年5月に愛西市との連携による武将観光バスツアー「すべてはここから始まった！信長の聖地・勝幡城～信長が生まれた地を巡る～」を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県が主催する「あいち観光まちづくりゼミ」で培った他地域とのネットワークを活用し、継続的な広域周遊ルートの創出を目指す。 <p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知のお城観光推進協議会への参画を通じて、愛知県や愛知県観光協会、県内市町村等との連携を強化し、新たな武将観光ルートの創出に繋げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・美濃路街道連携協議会の加盟自治体(一宮市など)や信長公ゆかりの資源を有する近隣市町(愛西市、津島市、清須市など)を始め、本市と共通のテーマ・資源を持つ地域と連携し、新たな広域周遊ルートを創出することで、相乗的な誘客を目指す。 <p>★目標／ 新たな観光ルートの創出(3ルート)</p>

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針2 稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光・交流メニューの創出						
			広域観光組織及び協議体への参画	長期 (5年以上)	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も本市が美濃路街道連携協議会の幹事市であったが、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて美濃路ウォーク等の事業が実施できず、美濃路街道交流パネル展のみ、①稲沢市中央図書館及び②美濃路稲葉宿陣跡ひろばでの「第2回美濃路稲葉宿元気マルシェ」において開催した。 (開催日程:①2022年1月8日～16日、②1月22日) (来場者数:①8,573人<図書館来館者>、②260人) <p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県街道観光推進協議会への参画を通じて、「美濃路稲葉宿本陣跡ひろば」を始めとする市内の美濃路エリアの魅力を県内外に広く発信した。 ・愛知のお城観光推進協議会への参画を通じて、「お城EXPO 2021」及び「につぼん城まつり2022 feat.出張！お城EXPO in 愛知」に出展し、観光ガイドブック「信長と稲沢」の配布。来場記念特別御城印の販売、CG復元動画の放映など、「信長公生誕の地・勝幡城跡」のPR活動を展開した。また、同協議会でお城観光ガイドブック「百花城乱」が作成され、「勝幡城跡」が信長公ゆかりの城として掲載された。 ・2023年大河ドラマ「どうする家康」の放送を契機に、「徳川家康ゆかりの地」及び「武将のふるさと愛知」を広く全国に情報発信するとともに、観光振興による地域の活性化を図ることを目的として愛知県が新たに設置した「愛知県大河ドラマ『どうする家康』観光推進協議会」に参画した。 ・愛知・名古屋観光誘客協議会への参画を通じて、旅行事業者に「現地ガイドと巡る信長公生誕の地・勝幡城跡」「ぎんなんマイスターになるう！祖父江イチョウ黄葉ガイド付き散策」など、稲沢市の観光素材を活用した特別企画等を提案した。また、同協議会が主催する観光商談会(オンライン)に参加し、旅行事業者に本市の企画を組み入れた旅行商品の造成を働き掛けた。 <p>【市・市観光協会・農商工事業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知・名古屋観光誘客協議会が夏期に展開した「あいち冷やし旅」キャンペーンに参画し、稲沢フルーツ園が「パッションフルーツ収穫とバナナアイスづくり体験」のほか、愛知のご当地かき氷クーポン「あいちスノーブーケ」の企画でオリジナルかき氷を提供した。 	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美濃路街道連携協議会や愛知県街道観光推進協議会への参画を通じて、関係市町との連携の下、街道観光事業を展開し、美濃路稲葉宿が持つ歴史の魅力を県内外に広く発信していく。 ・愛知のお城観光推進協議会及び愛知県大河ドラマ「どうする家康」観光推進協議会への参画を通じて、愛知県や愛知県観光協会、県内市町村等と連携した武将観応・お城観光事業を推進し、「信長公生誕の地」の認知度向上と観光誘客に繋がるプロモーション活動を積極的に展開していく。 ・信長公にゆかりのある自治体との関係強化を図る中で、連携した武将観光メニューの創出と将来的な広域連携組織への参画を視野に入れていく。 ・愛知・名古屋観光誘客協議会等への参画を通じて、愛知県、愛知県観光協会、運輸機関(鉄道会社等)との連携により、プロモーション活動や周遊促進施策を効果的に展開し、本市への更なる観光誘客に繋げていく。
2	⑥ 寺社との連携強化による文化財の活用	◆文化財の活用に向けて、文化財所有者で組織する連絡協議会、行政及びボランティアガイドの団体による連絡会議を開催し、公開に向けた方策を検討する。	文化財の活用に関する協議体による検討	短期 (1～3年)	<p>【市・寺社】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体「ふるさとガイドの会」の協力により、長福寺において文化財公開デーの開催を計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止した。 <p>【市観光協会・寺社】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年春に延期された善光寺東海別院の7年に1度御開帳に向けて、全国各地からの誘客を図るため、観光商談会で同院を組み入れた観光コースを提案するなど、旅行事業者に対するプロモーション活動を展開した。 <p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光及び文化財関係者の相互連携による具体的かつ効果的な活用施策を展開していくための連絡調整を行う場として、「観光・文化財連絡調整会議」を設置した。 	<p>【市・寺社・市民団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財所有者及びボランティア団体との連携により文化財公開デーを開催し、活用を図っていく。 <p>【市観光協会・寺社】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年4月3日から6月29日までの88日間にかけて執り行われる善光寺東海別院の御開帳において、全国各地からの来訪者を受け入れ、おもてなしができるよう、引き続き連携協力しながらプロモーション活動を展開していく。 <p>・寺社・文化財の魅力を再発見するガイド案内プランの創出を目指す。</p> <p>★目標/4プラン創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ①尾張大國霊神社(国府宮) ②善光寺東海別院の御開帳 ③信長公ゆかりの地(長光寺) ④徳川家光公ゆかりの地(禪源寺)

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針2 稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光・交流メニューの創出						
2	⑦ サリオパーク祖父江を核とした体験型観光の推進	◆毎年多くの賑わいと交流が生み出されている稲沢夏まつり、稲沢サンドフェスタや東海シクロクロス大会、絶滅危惧種の野鳥類をはじめ貴重な生物の生息観察ができる環境学習会（自然観察会）などの催しをさらに磨き上げるとともに、国・県との連携の下、ウィンドサーフィンや水上バイク、サップヨガなどの水上スポーツ、バーベキューや砂丘を活用した体験型イベントなど、サリオパーク祖父江の特色を活かした「ここでしかできない」自然体験型の観光メニューを創出し、年間を通じた集客へとつなげていく。	サリオパーク祖父江と善光寺東海別院等の周辺施設を組み合わせた観光ルートの設定（再掲）	短期 （1～3年）	【市観光協会】 ・「稲沢の自慢スポットを巡る旅」と題して、祖父江イチョウ黄葉、サリオパーク祖父江、稲沢フルーツ園、尾張大國霊神社、善光寺東海別院、稲沢市荻須記念美術館（特別展観覧）など、秋の稲沢ならではの自慢スポットを巡るバスツアーを実施した。 （11月26日 催行）（参加者数：20人）	【市観光協会】 ・善光寺東海別院の御開帳と合わせて来訪していただけるよう、サリオパーク祖父江や5月上旬に見頃を迎える王子板紙工場外周のツツジ（稲沢市景観地50選の一つ）、祖父江ふれあいの郷（天然温泉）などを巡るモデルルートを創出し、PRに努めていく。
			環境学習会（自然観察会）の開催	短期 （1～3年）	【市】 ・自然観察会（昆虫の観察・採集）を開催した。 （7月17日）（参加者数：18名） ※5月22日にも自然観察会（植物及び昆虫の観察）を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止。	【市】 ・2022年5月21日、7月23日に自然観察会（植物及び昆虫の観察）を開催予定。開催時間は午前9時～11時。
			サリオパーク祖父江の特色を活かした体験型観光メニューの創出	短期 （1～3年）	【市・市観光協会・市民団体】 ・サリオパーク祖父江で実施されているSUP、SUPヨガ、ウィンドサーフィンなどのアクティビティ体験について、新たな観光メニューとして活用できないか情報収集を行った。なお、イベント開催時以外における通年での受入体制づくりが今後の課題である。 【市・国・県・市観光協会・市民団体】 ・サリオパーク祖父江の活性化、年間を通じた誘客に向けて、「サリオパーク祖父江イベント実行委員会」を中心に、当地の特色を活かした多様なイベントを企画したが、新型コロナウイルスの影響により春、夏のイベントは中止、秋のイベントも縮小開催となった。 【市民団体】 ・いなざわ観光まちづくりラボメンバーが所属する団体「mizube38」が中心となり、サリオパーク祖父江で木曾川の大自然の中でのアクティビティや体験、遊びを楽しんでもらうイベント「MAKAI BEACH FESTIVAL 2021」が開催された。 （7月24日・25日） （来場者数：3,500人）	【市・市観光協会・市民団体】 ・サリオパーク祖父江でのアクティビティ体験について、観光メニューとしての活用を図り、商品化に繋げていく。また、流通ルートを開拓し、若者やファミリー層を主要なターゲットとして誘客を図る。加えて、いなざわ観光まちづくりラボとの協働により、新たなメニューの創出にも取り組んでいく。 ★目標／新たな体験型メニューの創出(3プラン) 国や県、mizube38等と連携した新たなプラン開発
			サリオパーク祖父江における適切な公園機能の充実と周辺道路の整備	中期 （3～5年）	【市】 ・用地買収契約締結、一部工事施工中。 ・道路整備に合わせた3公園の一体利用の促進に向けて、祖父江3公園整備運営協議会で協議を進めている。	【市】 ・民間用地買収完了、一部工事施工を予定。 ・道路整備に合わせた3公園の一体利用の促進に向けて、祖父江3公園整備運営協議会で引き続き協議していく。
2	⑧ “農”を活用した体験型観光メニューの創出	◆「祖父江ぎんなん」のさらなるブランド力の向上を目指して、代表4品種である「久寿」「藤九郎」「栄神」及び「金兵衛」の保全を行い、広く銀杏を県内外にPRする場となる「(仮称)イチョウ見本園」を整備し、来訪者にそぶえイチョウ黄葉まつりと合わせて回遊してもらうなど、新たな市内名所として活用する。 ◆地域との連携により、田植え・稲刈り等の農業体験や自然環境学習が行える“農”を活用した体験型メニューの創出に取り組むとともに、市内外の方が気軽に参加できる農業体験農園を開設しようとする農業者、民間企業等の発掘にも努める。	地域と連携した農業体験メニューの創出	短期 （1～3年）	【市・市観光協会】 ・「椿園」「内藤醸造」「稲沢フルーツ園」など見学受入可能施設を旅行商品に組み込んでもらえるよう、企画提案資料を作成し、旅行事業者との観光商談会でPRを行った。 【市・市観光協会・稲沢商工会議所】 ・稲沢商工会議所が主催する「稲沢まちゼミ」(得する街のゼミナール)に参加し、着地型観光プラン「ぎんなんマイスターになる！」を昨年度に引き続き実施した。イチョウ黄葉のガイド付き散策に加え、祖父江町商工会とJA愛知西の協力を得て、ぎんなん落とし体験を新たにプログラムへ取り入れた。 【市観光協会】 ・コロナ禍で遠方への旅行が難しい中、地元の魅力を再発見してもらうため、会員事業者との連携の下、稲沢市の地域資源の魅力(ひと・もの・こと)を体感できる着地型体験プログラム(苔玉づくり体験、バナナ収穫&ピザ作り体験)を創出し、市内及び近郊エリアからの誘客に取り組んだ。 【市・市観光協会・農商工事業者】 ・愛知・名古屋観光誘客協議会が夏期に展開した「あいち冷やし旅」キャンペーンに参画し、稲沢フルーツ園が「パッションフルーツ収穫とバナナアイスづくり体験」を提供した。 【市・市民団体】 ・NPO法人祖父江のホタルを守る会の実験田で計2回自然観察会を実施した。 （10月2日、10月23日）（参加者：延べ77人） ※6月13日、8月23日にも同場所で自然観察会を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止。	【市・市観光協会・農商工事業者】 ・農園見学、収穫体験など個々に実施されているものの、観光メニューとして活用されていないコンテンツが市内に潜在しているため、関係事業者への働き掛けやいなざわ観光まちづくりラボとの連携により、新たなメニューの創出に取り組んでいく。 ★目標／新たなものづくり体験、収穫体験メニューの創出(3プラン) 【市・市観光協会・祖父江町商工会・農商工事業者】 ・祖父江ぎんなんパークを活用し、イチョウの花の観察やぎんなん収穫体験など、イチョウ黄葉見学以外の新たな楽しみ方を提案していく。 【市・市民団体】 ・NPO法人祖父江のホタルを守る会の実験田で2022年6月12日、8月20日、10月1日、10月23日の計4回自然観察会を開催予定。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針2 稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光・交流メニューの創出						
			農業体験農園の整備、農業体験の場の提供	短期 (1～3年)	<p>【市・JA愛知西】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA愛知西、一宮市、稲沢市の共同運営による「はつらつ農業塾」を実施した。 	<p>【市・JA愛知西】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA愛知西、一宮市、稲沢市の共同運営による「はつらつ農業塾」運営協議会を開催し、今後の運営方法について協議していく。 <p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民農園や農業体験農園等の現状把握及び今後開設しようとする農業者の発掘に努める。また、既に取組を実施している農業者団体に対して、受入れの意思がある場合は、市民向け広報を中心に活動を支援していく。 <p>【市・市観光協会・祖父江町商工会・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖父江ぎんなんパークにおいて、ぎんなん収穫体験の場を提供していく。
			植木・苗木、祖父江ぎんなん等の農産品の販売拡充	短期 (1～3年)	<p>【市・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い近隣市町村で行われる多くのイベントが中止となったが、一宮市で開催されたイベントで即売会や入学記念樹の配布を行い、稲沢の植木・苗木のPRを行った。 <p>【市観光協会・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で祭り・イベントの開催に限られる中、プロバレーボール等の試合会場である豊田合成体育館(エントリオ)、いなざわ観光まちづくりラボ主催イベント「美濃路稲葉宿元気マルシェ」と「ワンコインチャリティー四季の詩」の会場で市内の農産品販売を行った。なお、「いなざわ梅まつり」の会場でも販売ブースを設ける。 <p>【祖父江町商工会・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そぶえイチョウ黄葉まつり」は中止となったが、イチョウ黄葉シーズンに開催した「祖父江ぎんなんマルシェ拡大版」を活用し、県内外から訪れた黄葉観賞者に対して、ぎんなんとぎんなん加工品のPR販売を行った。 <p>【祖父江ぎんなんブランド推進協議会(JA愛知西・市・市観光協会・県・祖父江町商工会・農商工業者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祖父江ぎんなん」の魅力発信と販売強化による消費拡大及びクレーム防止を目的に、愛知県農業生産力強化支援事業による産地戦略に基づき、「レシピ・保存方法」のリーフレット、「ぎんなんは生鮮食品です」チラシの作成に取り組んだ。作成したリーフレット等は通信販売やイベント販売時に活用した。 <ul style="list-style-type: none"> ・11月にイオンモール熱田で開催された愛知県の街道事業イベントに出展し、「祖父江ぎんなん」及び「祖父江ぎんなん街道」のPR活動を行った。 <p>【JA愛知西】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月と11月に産直店舗においてJA地産地消まつりを開催した。 	<p>【市・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市外のまつりにも引き続き出店し、植木・苗木の販売拡充に繋げていく。 <p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の観光イベントや観光物産展において、祖父江イチョウ黄葉のPRと合わせて、ぎんなんの販売を行っていく。 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そぶえイチョウ黄葉まつり」及び「祖父江ぎんなんマルシェ」を活用して、今後もぎんなんとぎんなん加工品のPR販売を行っていく。 <p>【祖父江ぎんなんブランド推進協議会(JA愛知西・市・市観光協会・県・祖父江町商工会・農商工業者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の公式Webサイトでイベント・販売情報を発信するなど、更なる知名度向上と消費拡大を目指し、地域一体となって「祖父江ぎんなん」の魅力をPRしていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・「祖父江ぎんなん」の産地が抱えるボトルネックについて、あいち農業高度化プランナー事業に基づき、派遣プランナーから他業種のノウハウや他県の事例を踏まえた視点により改善提案を受けた取組(売上増に繋がる施策)を進めていく。 <p>【JA愛知西】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA地産地消まつりで「祖父江ぎんなん」の販売を行う。また、各産直広場における販売促進にも引き続き取り組んでいく。
			「(仮称)イチョウ見本園」整備事業	中期 (3～5年)	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年6月に「祖父江ぎんなんパーク」としてオープンした。 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市から祖父江ぎんなんパークの管理委託を受け、「祖父江ぎんなんマルシェ」の開催のほか、ぎんなん収穫体験やノルディックウォーキングなどの活性化事業を展開した。 	<p>【市・市観光協会・祖父江町商工会・JA愛知西・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖父江ぎんなんパークにおいて、「そぶえイチョウ黄葉まつり」「祖父江ぎんなんマルシェ」の会場活用を始め、「ぎんなん・歴史・健康」をテーマに幅広い世代の人々が訪れ、多彩な交流が図れる拠点づくりを進め、「祖父江ぎんなん」ブランドの更なる向上を目指す。 <p>【市・市観光協会・祖父江町商工会・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖父江ぎんなんパークを活用し、イチョウの花の観察やぎんなん収穫体験など、イチョウ黄葉見学以外の新たな楽しみ方を提案していく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針2 稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光・交流メニューの創出						
2	⑨ 健康づくりと運動したまち歩きの推進	<p>◆健康づくり用のスマートフォンアプリ、観光ガイドブックとウォーキングマップが一体となったマップを作成し、まち歩きに活用してもらうことで、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を図るとともに、来訪者による市内周遊性の向上と地域の魅力発見につなげ、ウェルネスツーリズムをコンセプトとした新たな事業展開を目指す。</p> <p>◆アプリを活用したウォーキングポイント制度として、ウォーキングに参加することでポイントが加算され、貯まったポイントと引き換えに特産品等の景品を贈呈する取り組みを検討する。</p>	健康づくりアプリ・ウォーキングマップの作成	短期 (1～3年)	【市観光協会】 ・稲葉宿を始めとする市内の美濃路エリアの魅力紹介とウォーキングマップが一体となった「美濃路でくまマップ」を活用し、市民及び来訪者がウォーキングを楽しめるよう啓発を行った。	【市】 ・「美濃路でくまマップ」「稲沢市観光ガイドブック」「稲沢市観光ガイドマップ」や「るるぶ特別編集稲沢市」といった観光パンフレット等を活用して、地域の魅力やウォーキングコースなどを引き続き啓発していく。
			ウォーキングポイント制度の検討	短期 (1～3年)	未実施	【祖父江町商工会】 ・実施に向けて調査研究を行う。
			ウェルネスツーリズム事業	中期 (3～5年)	<p>【市】 ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、美濃路ウォーク実行委員会による「美濃路ウォーク」や「いきいきいなざわ健康秋フェスタ」におけるウォーキングイベントが2年連続で中止となった。</p> <p>【市観光協会・交通事業者】 ・JR東海に対してハイキングの実施を提案した結果、6月に大塚性海寺歴史公園・性海寺に立ち寄りJRさわやかウォーキングが企画されたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となった。</p> <p>・名古屋鉄道に対してハイキングの実施を提案した結果、名鉄ハイキングが国府宮駅スタートで実施された。稲沢市観光協会も参加賞の提供等で協力した。 (2022年1月22日) (参加者数:1,562人) ※9月にもハイキングが計画されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止。</p> <p>【祖父江町商工会】 ・通年型のツーリズム事業として、新緑期・黄葉期のイチョウを巡るウォーキングを計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、黄葉期のノルディックウォーキングのみの実施となった。</p>	<p>【市】 ・新型コロナウイルスの感染対策に注意しながら、ウォーキングイベントを開催していく。まち歩きによって地域の魅力を発見し、楽しみながら健康づくりに繋がる機会を提供していく。</p> <p>【市・市観光協会】 ・市内観光地点を巡る魅力的なウォーキングコースの設定を行い、まち歩き観光の促進を図る。 ★目標／まち歩きプランの創出(2プラン) 美濃路、矢合観音と国分寺など</p> <p>【祖父江町商工会】 ・今後も各種ウォーキングイベントの広報に注力し、参加者の増加を目指していく。</p>
2	⑩ 荻須記念美術館の魅力向上	<p>◆本市が輩出した荻須高德画伯を顕彰する美術館をシンボルとして芸術文化の振興を図る。</p> <p>◆荻須画伯に関する作品、資料のさらなる収集に努め、特別展・企画展を開催することで鑑賞の機会を提供し、市内外からの幅広い集客を図る。</p> <p>◆市内の大学等と連携し、体験型イベントをはじめ、美術館の魅力向上と集客につながる事業を展開していく。</p>	特別展・企画展の開催	短期 (1～3年)	<p>【市】 ・荻須高德の生誕120年を記念して、特別展「生誕120年記念荻須高德展-私のパリ、パリの私-」を開催した。 (会期:10月23日～12月19日) (入場者数:10,208人)</p> <p>・市民の芸術文化振興を目的として、第58回稲沢市民展を開催した。 (会期:Ⅰ部10月5日～10日、Ⅱ部10月12日～17日) (入場者数:Ⅰ部1,176人、Ⅱ部971人)</p> <p>・市内の小中学生が描いた写生画の優秀作品を展示する、第42回絵になる町児童生徒絵画展を開催した。 (会期:1月4日～16日) (入場者数:1,996人)</p>	<p>【市】 ・荻須高德も教えを受けた、近代洋画家を代表する藤島武二のスケッチ等100点(大川美術館所蔵)と油彩画により、その活躍を多角的に紹介する特別展「藤島武二 スケッチ百花-大川美術館コレクションと名花の彩り-」を開催する。 (会期:2022年10月22日～12月4日)</p> <p>・第59回稲沢市民展(会期:Ⅰ部2022年10月4日～10日、Ⅱ部10月12日～16日)、第43回絵になる町児童生徒絵画展(会期:2023年1月4日～15日)をそれぞれ開催する。</p>
			稲沢市美術館大学パートナーシップ事業	短期 (1～3年)	<p>【市・大学】 ・特別展に関連した連携事業を市内各大学と実施した。</p> <p>*名古屋文理大学* 「アート&コンサート」 特別展鑑賞と合わせ、フランス映画と音楽をテーマにしたトークとミニコンサートを楽しんでいただく企画を一般財団法人稲沢市文化振興財団の協力を得ながら実施。 (11月21日)</p> <p>*愛知文教女子短期大学* ①「美術館で着物を楽しむ～鑑賞+アフタヌーンティー」 着物を着て特別展を鑑賞した後に、市内の飲食店でアフタヌーンティーを楽しんでいただく企画を実施。 (11月26日) ②「飲食店マップの作成」 学生が中心となり、美術館周辺の飲食店等を掲載したマップを作成。</p>	<p>【市・大学】 ・大学との連携を更に深め、魅力ある美術館大学パートナーシップ事業を展開することで、集客力の向上に繋げていく。</p>

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針2 稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光・交流メニューの創出						
2	⑪ 四季の地域資源を活用したまつり・イベントの開催	<p>◆国府宮はだか祭、さくらまつり、植木まつり、あじさいまつり、サンドフェスタ、イチョウ黄葉まつりなど、季節や地域の魅力を伝えることができる祭り・イベントを持続的に開催できるよう支援を行っていく。</p> <p>◆これらの既存イベントに加え、特産品を活用した食のイベントや体験型イベントなど、地域の魅力をつなぎ、来訪者が気軽に楽しめる新たなイベントを地域とともに創出し、来訪者の増加を図る。</p>	稲沢桜まつり・へいわくらまつり	短期 (1～3年)	<p>【稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月3日に国府宮参道で開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2年連続で中止となった。 <p>【平和町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月3日に稲沢市平和町体育館及びその周辺で開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2年連続で中止となった。 	<p>【稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年4月1日から10日までの期間、国府宮参道での開催を検討中。 <p>【平和町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年4月2日に稲沢市平和町体育館及びその周辺での開催を検討中。
			いなざわ植木まつり	短期 (1～3年)	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月20日から29日まで国府宮参道で開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2年連続で中止となった。 	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年4月20日から29日まで国府宮参道で開催予定。植木・苗木の即売をメインとしつつ、緑に親しむ祭りとして幅広い世代の方に来場していただけるよう、各種イベントを検討していく。
			稲沢あじさいまつり	短期 (1～3年)	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月1日から20日までの期間、大塚性海寺歴史公園及び性海寺で開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2年連続で中止となった。 ・現地へ訪れるアジサイ観賞者に向けて感染防止対策の徹底を呼び掛けるとともに、臨時駐車場や案内看板の設置、警備員の配置等を行い、受入環境の整備に努めた。 (6月1日～20日の来訪観賞者数:32,000人) 	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年6月1日から19日までの期間、大塚性海寺歴史公園及び性海寺で開催予定。次年度は、密になる恐れがあるイベント等を無くし、園内の美しい風景づくりに焦点を当てて取り組んでいく。また、来場者からの要望に応え、会場周辺の飲食店マップを作成する。
			稲沢夏まつり	短期 (1～3年)	<p>【稲沢夏まつり実行委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月28日にサリオパーク祖父江で開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2年連続で中止となった。 	<p>【稲沢夏まつり実行委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年8月末にサリオパーク祖父江で開催予定。
			稲沢サンドフェスタ	短期 (1～3年)	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から密が危惧されるイベントは全て中止し、砂の造形展のみを開催した。 (10月9日～11月3日) (来場者数:19,636人) 	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年10月8日から11月3日までの期間、サリオパーク祖父江で開催予定。次年度は、イベントの見直しにより、集客と満足度の維持に努めていく。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘客効果を相乗的に高めるため、「稲沢サンドフェスタ」と「そぶえイチョウ黄葉まつり」の開催期間の調整を関係者に働き掛けていく。
			稲沢まつり	短期 (1～3年)	<p>【稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月16日、17日に国府宮参道、名古屋文理大学文化フォーラムほかで開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2年連続で中止となった。 	<p>【稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年10月15日、16日に国府宮参道、名古屋文理大学文化フォーラムほかで開催予定。
			そぶえイチョウ黄葉まつり	短期 (1～3年)	<p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月20日から11月28日までの間、祖父江ぎんなんパーク及び祐専寺周辺での開催を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2年連続で中止となった。 ・現地へ訪れる黄葉観賞者に向けて感染防止対策の徹底を呼び掛けるとともに、臨時駐車場、仮設トイレ、案内看板の設置、警備員の配置、黄葉情報の発信等を行い、受入環境の整備に努めた。 (11月20日～28日の来訪観賞者数:120,000人) ※「祖父江ぎんなんマルシェ拡大版」の来場者数を含む。 ・イチョウ黄葉が見頃を迎える時期に、新型コロナウイルスの感染状況が沈静化を見せたことから、「祖父江ぎんなんマルシェ拡大版」を5日間開催した。 (11月20日・21日・23日・27日・28日) (来場者数:67,000人) <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月26日にイチョウ黄葉散策を組み込んだバスツアー「稲沢の自慢スポットを巡る旅」を実施した。 (参加者数:20人) 	<p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年11月下旬に祖父江ぎんなんパーク及び祐専寺周辺で開催予定。来場者の更なる増加を目指したイベントづくりを検討していく。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そぶえイチョウ黄葉まつり」の開催期間中にバスツアーで訪れる旅行者に対して、祖父江イチョウ黄葉の魅力をしっかりと伝えるため、現地ガイドを始めとする受入体制の充実に努めていく。また、祖父江ぎんなんパークの活用に繋がるよう、団体ツアー客以外も対象としたガイド体制の構築にも取り組んでいく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針2 稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光・交流メニューの創出						
			国府宮はだか祭	短期 (1~3年)	【尾張大國霊神社(国府宮)】 ・尾張大國霊神社(国府宮)で難追神事を開催。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、昨年度に引き続き裸男によるなおい笹奉納やもみ合いを中止し、神男を伴う「なおい行列」を披露した。 (2022年2月13日) (当日参拝者数:40,000人)	【尾張大國霊神社(国府宮)】 ・2023年2月3日に尾張大國霊神社(国府宮)で開催予定。
			いなざわ梅まつり	短期 (1~3年)	【市観光協会】 ・愛知県植木センターで開催。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、集客力の高いステージイベント等の催しや会場内での飲食を中止し、梅の花の観賞を中心に楽しんでいただけるよう規模を縮小して開催する。 (2022年3月5日・6日)	【市観光協会】 ・2023年3月上旬に愛知県植木センターで開催予定。ラボメンバーとも連携し、イベントの開催に合わせて周辺の観光スポットも楽しめる企画を設定する。
			既存イベントにおける連携強化(再掲)	短期 (1~3年)	【市・市観光協会・商工会議所・商工会・市民団体】 ・愛知県から示されるイベント実施方針など、コロナ禍におけるイベントの開催方法や感染防止策について、主催者間で情報共有に努めた。 【市観光協会】 ・2022年3月5日、6日開催の「いなざわ梅まつり」において、関係団体との連携の下、特産品販売や「尾張国分寺跡ウォーキングツアー」など、地域の魅力の再発見に繋げる取組を実施する。 【祖父江町商工会】 ・イチョウ黄葉の観賞に訪れた方に向けて、地元飲食店及び土産・特産品店の一覧表と地図を記載したパンフレットを作成し、配布した。また、同情報を商工会の公式Webサイトにも掲載し、PRに努めた。 【稲沢イルミネーション実行委員会(市・市観光協会・商工会議所・寺社・農商工業者・大学・いなざわ観光まちづくりラボ)】 ・「稲沢イルミネーション」において、市内の大学や企業・団体等と連携し、「星川楽器マラソンコンサート&キッチンカー」「ストリートピアノ」、会場を提灯を持って歩く「みんなで灯そう幸せの光」、プロジェクションマッピングなどの各種イベントを行った。	【市・市観光協会・商工会議所・商工会・市民団体】 ・引き続き祭り・イベント間での情報共有を図り、連携した情報発信に努めることで、年間を通じた観光誘客に繋げていく。 【市観光協会】 ・オンラインでの展開を含め、コロナ禍でも連携して取り組めるイベントを企画検討していく。 ・イベントへの集客効果を相乗的に高めるため、「稲沢サンドフェスタ」と「そぶえイチョウ黄葉まつり」の開催期間を重ねることができないか、関係者に検討を働き掛けていく。 【祖父江町商工会】 ・今後も「そぶえイチョウ黄葉まつり」と連携した事業を各種補助金制度を活用しながら展開し、自然・産業を始めとする稲沢市の資源のPRに努めていく。 【稲沢イルミネーション実行委員会(市・市観光協会・商工会議所・寺社・農商工業者・大学・いなざわ観光まちづくりラボ)】 ・今後も市内で活動する団体等と幅広く連携を取りながら、魅力あふれるイベントを展開していく。
			地域が主体となったイベントの開催	中期 (3~5年)	【市・市観光協会・大学】 ・足立学園総合研究所と稲沢市、稲沢市観光協会が連携し、かつて美濃路稲葉宿が置かれた稲沢市の魅力を再発見するイベント「稲沢再発見 稲葉宿で歴史を語る」を美濃路稲葉宿本陣跡ひろばで開催した。今年度は「美濃路の魅力を活かして語る」と題し、いなざわ観光まちづくりラボメンバーが美濃路の魅力を落語や紙芝居を使って語った。当日の様子はイベント終了後、YouTubeでオンライン配信された。 (11月27日) (来場者数:45人) 【稲沢イルミネーション実行委員会(市・市観光協会・商工会議所・寺社・農商工業者・大学・いなざわ観光まちづくりラボ)】 ・市内の大学や企業・団体、行政等が連携し、「稲沢イルミネーション」を国府宮参道等で開催した。 (11月6日~12月25日) (来場者数:21,000人) 【市観光協会(いなざわ観光まちづくりラボ)】 ・ラボ主催で観光まちづくりイベントを開催した。 ①ワンコインチャリティー四季の詩 (4月16日、6月16日、8月16日、12月16日) (開催場所:稲沢市産業会館ほか) (来場者数:累計218人) ②美濃路稲葉宿元気マルシェ (10月16日、2022年1月22日) (開催場所:美濃路稲葉宿本陣跡ひろば) (来場者数:200人、260人) ③やわせてくくウォーキング♪ (2022年3月5日) (開催場所:尾張国分寺跡ほか)	【稲沢イルミネーション実行委員会(市・市観光協会・商工会議所・寺社・農商工業者・大学・いなざわ観光まちづくりラボ)】 ・2022年11月から12月下旬にかけて国府宮参道を中心に稲沢イルミネーションを開催予定。 【市観光協会】 ・いなざわ観光まちづくりラボが主体となって企画したイベントの開催支援に努めていく。 【祖父江町商工会】 ・来年度以降も「祖父江ぎんなんマルシェ」を定期開催していく。また、活用可能な補助金を探すなど、新たな地域イベントの実施に向けた取組も推進していく。 【平和町商工会】 ・市等の関係団体に加え、まちづくり推進協議会とも協議し、地域特有の新たなイベントの創出を検討していく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針2 稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光・交流メニューの創出						
2	⑫ 観光行動及び交流活動の推進	<p>◆「(仮称)いなざわお祭りスタンプラリー」を実施し、スタンプを集めた参加者には市内飲食店で使える食べ歩きクーポンやいなッピーグッズをプレゼントするなど、市内で開催されている祭り・イベントを通年でつなぐ仕組みを構築する。</p> <p>◆将来的にはスマートフォンアプリ等の活用を視野に入れて展開していくこととし、収集したデータは市内観光客の周遊データ分析に活用することで、次なる観光施策の推進につなげていく。</p>	「(仮称)いなざわお祭りスタンプラリー」の実施	中期(3~5年)	<p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖父江ぎんなんパークで、ぎんなんグルメや和菓子、農産物、軽食、ドリンクの販売ブースが出店する「祖父江ぎんなんマルシェ」を開催した。 （7月17日、10月16日、11月20日・21日・23日・27日・28日、2022年1月15日）（来場者数：累計71,350人） <p>【市民団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いなざわ観光まちづくりラボメンバーが所属する団体「mizube38」が中心となり、サリオパーク祖父江で木曾川の大自然の中でのアクティビティや体験、遊びを楽しんでもらうイベント「MAKAI BEACH FESTIVAL 2021」が開催された。 （7月24日・25日）（来場者数：3,500人） 	
			スマートフォンアプリ等の活用と市内観光客の動向分析	中期(3~5年)	実施なし	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「おすすめグルメシールラリー」を実施する。 ・スマートフォンを活用して市内のおすすめカフェ・スイーツ店を巡るデジタルスタンプラリーを実施する。 <p>【市・市観光協会・商工会議所・商工会・市民団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体から意見を聴取するなど、「(仮称)いなざわお祭りスタンプラリー」の具体化に向けて調整を進めていく。 <p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンを活用したデジタルスタンプラリーの実施等により、来訪者の動向分析を継続的に行い、新たな観光事業の企画立案に活かしていく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針3 観光を活用した地域経済が潤う仕組みの構築						
3	① 観光資源の価値と理解を深めるプロモーションの強化	<p>◆利用者が必要な情報を入手しやすいように観光情報を集約するための「観光ポータルサイト」を開設するほか、SNSをはじめとする新たなコミュニケーションツールを活用し、双方向の情報共有が可能な仕組みの構築を検討する。</p> <p>◆マスメディア、ケーブルテレビやタウン誌などの地域メディアとの連携を強化するとともに、フィルムコミッション事業を推進する。</p> <p>◆本市の魅力を広くPRするためのツールとして、市内外を問わず高い認知度を誇り、幅広い年代層から人気がある稲沢市公式マスコットキャラクター「いなっピー」や稲沢市観光PR大使、稲沢市キャンペーン・レディーを積極的に活用するほか、愛知県や愛知県観光協会をはじめとする関係機関・団体、大型商業施設や交通事業者等と連携した観光プロモーションを展開していく。</p> <p>◆本市への来訪意欲と消費意欲を喚起に向けて、今後ファンづくりとリピーターづくりが必要となるため、観光資源のブランディングにより本市の価値と魅力を高め、それに共感する人々を的確にターゲットとする戦略的な観光プロモーションを稲沢市観光協会を中心に取り組んでいく。</p>	<p>SNS等の新たなコミュニケーションツールを活用した情報発信</p>	<p>短期 (1～3年)</p>	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢市観光協会公式Instagramアカウントを立ち上げ、稲沢市の様々な魅力情報を積極的に発信した。また、稲沢市キャンペーン・レディーによるInstagram投稿にも取り組み、SNSを活用した情報発信の強化に努めた。 ・「おすすめグルメシールラリー」の実施に合わせ、市民と共に稲沢市内の飲食店や特産品の魅力を発信する取組として、Instagram投稿キャンペーン「#いなざわグルメ」を実施した。 ・稲沢市キャンペーン・レディーが市内(祖父江町エリア)の魅力スポットや飲食店を紹介する動画「おすすめ！祖父江町スポットめぐり」を作成し、稲沢市観光協会の公式Webサイト及びYouTube上で配信した。 ・コロナ禍のため、従来実施してきた「地産地消おしゃれな料理教室」は参加者を募集せず、講師による「祖父江ぎんなん」の調理動画を撮影し、稲沢市観光協会の公式Webサイト及びYouTube上で配信する形とした。 <p>【市観光協会(いなざわ観光まちづくりラボ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域資源の見える化を図る」プロジェクトの取組として、今まであまり注目されてこなかった市内の地域資源にスポットを当て、その魅力を動画撮影しYouTube上で配信した。 ①稲沢サンドフェスタ(砂の造形展)における砂像制作過程 ②「今も息づく信長の“うつけ魂”を訪ねる旅」バスツアーの様子(勝幡城跡、椿園、稲沢サンドフェスタ(砂の造形展)、性海寺、尾張大國霊神社) ③「稲沢の自慢スポットを巡る旅」バスツアーの様子(祖父江イチョウ黄葉散策、善光寺東海別院、稲沢フルーツ園、サリオパーク祖父江) ④美濃路稲葉宿御印手作り体験及び美濃路稲葉宿周辺散策の様子 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そぶえイチョウ黄葉まつり」は中止となったが、現地へ訪れる黄葉観賞者に向けて、商工会のTwitterや「そぶえイチョウ黄葉まつり実行委員会」の公式Webサイト上で黄葉状況等をタイムリーに発信した。 <p>【稲沢イルミネーション実行委員会(市・市観光協会・商会議所・寺社・農商工業者・大学・いなざわ観光まちづくりラボ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Twitter、instagram、Facebookを活用し、イベント情報をタイムリーに発信した。 	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各祭り・イベントにおいて、開催の目的や内容、ターゲットとする来場者に応じた最適なSNSを活用し、効果的かつタイムリーな情報発信によって誘客に繋げていく。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Instagram投稿キャンペーンの実施など、SNSの活用により公式サイト等と連動した効果的かつタイムリーな情報発信を推進し、稲沢市の観光情報への訴求力を高めていく。 ・稲沢市観光協会公式Instagram及び稲沢市キャンペーン・レディーInstagramについて、市民を含め、より多くの方々に稲沢市の観光資源の魅力を広めていけるよう、投稿内容の充実と発信力の強化に努めていく。 ★目標／ 稲沢市観光協会公式Instagramフォロワー数:1,000 ・いなざわ観光まちづくりラボメンバーである市内在住YouTuberとの連携により、稲沢ならではの地域資源(ひと・もの・こと)の魅力を発信する動画を撮影し、YouTubeで配信する。また、協会会員の紹介動画の撮影及び配信を検討する。 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会の公式Webサイト、Twitter及び「そぶえイチョウ黄葉まつり」の公式Webサイトを活用して、祖父江イチョウ黄葉やぎんなんに関する情報を随時発信していく。 <p>【稲沢夏まつり実行委員会・稲沢イルミネーション実行委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Twitter、instagram、Facebookを活用し、各祭り・イベントの情報をタイムリーに発信していく。
			マスメディアや地域メディアとの連携強化	短期 (1～3年)	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報道機関に市内の観光情報のほか、稲沢市観光協会や協会会員が展開する様々な取組を積極的に情報提供した。その結果、今年度も祖父江イチョウ黄葉やぎんなんを始め、多くのメディアから取材や問合せが寄せられた。また、市内店舗や事業者のメディア露出機会も増加した。 ・新型コロナウイルスの影響で、主要な祭り・イベントが中止又は縮小開催となり、メディアへの情報提供のタイミングやバランス調整に苦慮した。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いなっピーグッズの新商品情報を報道機関に積極的に提供した結果、新聞紙や地域情報誌に取り上げられ、売上増加に繋がった。 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そぶえイチョウ黄葉まつり」は中止となったが、「祖父江ぎんなんマルシェ」や黄葉状況等について多くのメディアから問合せや取材が相次いだ。これらに全面的に協力することで、今後のメディアプロモーションに向けた関係構築に努めた。 	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢市の観光資源の魅力を県内外に広く認知してもらうため、メディアを効果的に活用していく。各メディアに対して絶えず新鮮な情報を提供できるよう、地域とのコミュニケーションを常に意識し、情報収集に努めていく。 <p>【市・市観光協会・祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ、祭り・イベントの開催に向けてキャラバン隊を編成し、報道機関に対する重点的なPR活動を展開していく。
			フィルムコミッション事業の推進	短期 (1～3年)	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「愛知県フィルムコミッション協議会」を通じて情報収集に努めた。 	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の具体化と体制づくりを検討していく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針3 観光を活用した地域経済が潤う仕組みの構築						
			いなっピーの活用	短期 (1~3年)	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で市内外の多くの祭り・イベントが中止となる中、新たに実施したアビタ稲沢店での「いなっピーまるごと観光展」に参加し、観光PRに協力した。 ・武将観光、お城観光イベントでのPR活用を目的として、織田信長公をイメージした衣裳を新たに制作した。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いなっピーグッズの新品として、ハンディーファンや巾着袋を制作し、販売した。 	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況を見据えながら、市内外での観光PR機会を探っていく。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いなっピーグッズの制作に当たり、市場のニーズ調査を行う。その結果を踏まえた魅力的な新商品を開発することで、一部のファン層だけでなく、より多くの方々の購買意欲を促し、稲沢市への愛着と注目度の向上に繋げる。 ・いなっピーグッズの在庫状況を踏まえ、市内外で開催される祭りやイベントへの出店など、販売機会の拡充と販売活動の強化に取り組む。
			稲沢市キャンペーン・レディーの活用	短期 (1~3年)	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により多くの祭り・イベントが中止となり、活動機会が限られた。 ・稲沢市キャンペーン・レディーが市内(祖父江町エリア)の魅力スポットや飲食店を紹介する動画「おすすめ！祖父江町スポットめぐり」を作成し、稲沢市観光協会の公式Webサイト及びYouTube上で配信した。 ・稲沢市キャンペーン・レディーInstagramアカウントを立ち上げ、市内の観光スポットやグルメ情報を発信した。 	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢市の観光PRと知名度向上に繋がるよう、祭り・イベントにおけるPR活動だけでなく、Instagram投稿やYouTubeによる動画配信など、SNSによる発信面でも積極的な活用を図っていく。 ・コロナ禍においても活躍してもらえよう、祭り・イベントが中止になった場合を想定した年間活動計画を作成し、具体的な成果に繋げていく。
			関係機関等と連携した観光プロモーションの推進	短期 (1~3年)	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた近郊エリアからの誘客促進及び観光まちづくりに対する市民意識の醸成を図るため、アビタ稲沢店の協力の下、「いなっピーまるごと観光展」を開催した。(8月26日・27日、2022年2月22日・23日) ・愛知の公式観光Webサイト「Aichi Now」や愛知県観光協会公式サイト「あいちの観光ナビ」、愛知の旅まるごとマガジン「旬感観光あいち」への掲載による拡散効果を狙い、県及び県観光協会へ本市の観光・イベント情報を積極的に提供した。 ・愛知県街道観光推進協議会への参画を通じて、「美濃路稲葉宿本陣跡ひろば」を始めとする市内の美濃路エリアの魅力をも県内外に広く発信した。 ・県の観光事業や愛知のお城観光推進協議会への参画を通じて、愛西市及び愛西市観光協会と共同で「信長公生誕の地・勝幡城跡」のPR活動を展開した。 <ul style="list-style-type: none"> ①「サムライ・ニンジャフェスティバル2021」に出展。(11月21日/県営都市公園大高緑地)(御城印の販売など) ②「お城EXPO 2021」に出展。(12月18日・19日/パシフィコ横浜ノース)(来場記念特別御城印の販売、勝幡城CG復元動画の放映など) ③「にっぽん城まつり2022 feat.出張！お城EXPO in愛知」に出展。(2022年3月19日・20日/Aichi Sky Expo)(来場記念特別御城印の販売、信長ゆかりの地を巡るバスツアーの募集告知など) ・愛知・名古屋観光誘客協議会への参画を通じて、旅行業者に「現地ガイドと巡る信長公生誕の地・勝幡城跡」「ぎんなんマイスターになろう！祖父江イチョウ黄葉ガイド付き散策」「日本で唯一の椿専門農園・ガイド付き園内見学と椿はちみつの試食体験」など、稲沢市の観光素材を活用した特別企画等を提案した。また、同協議会が主催する観光商談会(オンライン)に参加し、本市の企画を組み入れた旅行商品の造成を働き掛けた。 <p>【市・市観光協会・農商工事業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知・名古屋観光誘客協議会が夏期に展開した「あいち冷やし旅」キャンペーンに参画し、稲沢フルーツ園が「パッションフルーツ収穫とバナナアイスづくり体験」のほか、愛知のご当地かき氷クーポン「あいちスノーブーケ」の企画でオリジナルかき氷を提供し、集客に繋げた。 	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いなっピーまるごと観光展」を定期開催していく。 ★目標/年2回開催 ・美濃路街道連携協議会や愛知県街道観光推進協議会への参画を通じて、関係市町との連携の下、街道観光事業を展開し、美濃路稲葉宿が持つ歴史の魅力を県内外に広く発信していく。 ・愛知のお城観光推進協議会及び愛知県大河ドラマ「どうする家康」観光推進協議会への参画を通じて、愛知県や愛知県観光協会、県内市町村等と連携した武将観光・お城観光を推進し、「信長公生誕地・稲沢市」の認知度向上と観光誘客に繋がるプロモーション活動を積極的に展開していく。 ・愛知・名古屋観光誘客協議会等への参画を通じて、愛知県、愛知県観光協会、運輸機関(鉄道会社等)との連携により、プロモーション活動や周遊促進施策を効果的に展開し、本市への更なる観光誘客に繋げていく。 ・観光商談会や観光展等への参加を通じて旅行事業者を始めとする観光関係者との関係強化に努めるとともに、来訪者ニーズを踏まえた観光素材の楽しみ方やテーマ性のあるコース提案などに取り組む、新たな旅行商品の造成を働き掛ける。 ・県が「あいち観光戦略2021-2023」に基づき推進する「あいち『ツウ』リズム」の取組に連動して「稲沢『ツウ』リズム(仮称)」を展開し、稲沢市ならではの奥深い魅力を発信していく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針3 観光を活用した地域経済が潤う仕組みの構築						
			観光ポータルサイト・アプリの作成・運用	中期 (3～5年)	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢市の観光に関する情報を幅広く収集し、稲沢市観光協会の公式Webサイトを通じてタイムリーな発信に努めた。また、利用者及び観光客のニーズに応えるため、同サイト内の掲載コンテンツの充実とアクセシビリティの改善に努めた。 （2021年・公式Webサイトセッション数：128,863件） <p>【市観光協会（いなざわ観光まちづくりラボ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラボメンバーが中心となって運営する情報ポータルサイト「いいいなざわ」において、ラボメンバーが主催するイベントや市民が自ら取材して入手した稲沢市の隠れた魅力・スポット等の情報を随時発信した。 	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者及び観光客のニーズに応えるため、公式サイトに掲載するコンテンツを更に充実させ、訴求力の高いWebサイトへと改善を図っていく。また、SEO対策やアクセス解析等にも取り組んでいく。
			稲沢市観光PR大使の活用	中期 (3～5年)	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な検討に至らず。 	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢市キャンペーン・レディーのあり方と合わせて、検討していく。
			『いなざわ』ブランドの創出と磨き上げ	中期 (3～5年)	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祖父江ぎんなん」ブランドの強化・確立、「ぎんなん・歴史・健康」をテーマとした多彩な交流、イチョウ黄葉散策が楽しめる公園として、「祖父江ぎんなんパーク」が2021年6月にオープンした。 <p>【JA愛知西】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祖父江ぎんなん」のブランド力向上及び販売力強化を目的に、既存の3出荷組織を統一し、新たに「JA愛知西祖父江ぎんなんブランド部会」を設立した。 <p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「信長公生誕の地」を稲沢市を代表するブランドへと発展させるため、県内外の武将観光・お城観光イベントへの出展、アピタ稲沢店での「信長と稲沢」をテーマとした観光展の開催、「勝幡城跡」御城印の販売など、認知度向上のためのPR活動を展開した。 	<p>【市・市観光協会・祖父江町商工会・JA愛知西・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖父江ぎんなんパークにおいて、「そぶえイチョウ黄葉まつり」「祖父江ぎんなんマルシェ」の会場活用のほか、イチョウの花の観察やぎんなん収穫体験など、黄葉見学以外の新たな楽しみ方を提供することで、幅広い世代が交流できる拠点づくりと「祖父江ぎんなん」ブランドの更なる向上を目指す。 <p>【祖父江ぎんなんブランド推進協議会（JA愛知西・市・市観光協会・県・祖父江町商工会・農商工業者）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の公式Webサイトでイベント・販売情報を発信するなど、更なる知名度向上と消費拡大を目指し、地域一体となって「祖父江ぎんなん」の魅力をPRしていく。 <p>【市・市観光協会・祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祖父江イチョウ黄葉」の更なる地名度向上と集客に繋げるため、関係者との連携の下、積極的なプロモーション活動と現地での事業展開に取り組む。 <p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祖父江ぎんなん街道」の認知度を高め、現地への誘客に繋げるため、関係者に観光面での活用を働き掛ける。 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祖父江ぎんなん街道」の認定を活用して、ぎんなんを使った菓子、料理を始め、黄金色に染まる景色を楽しんでもらえるよう情報発信に努めていく。 <p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武将観光・お城観光イベントへの参加のほか、観光ガイドBOOK「信長と稲沢」や「勝幡城跡」御城印等のPRグッズを効果的に活用し、「信長公生誕地・稲沢市」の認知度向上と観光誘客に繋がるプロモーション活動を積極的に展開していく。また、市民グループや地域の歴史関係者との連携のほか、市民向けの啓発にも引き続き取り組み、市民の新たなアイデンティティ形成と観光まちづくり活動への発展を目指す。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針3 観光を活用した地域経済が潤う仕組みの構築						
			戦略的な観光プロモーションの実現(再掲)	中期 (3～5年)	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた近郊エリアからの誘客促進及び観光まちづくりに対する市民意識の醸成を図るため、アピタ稲沢店の協力の下、「い～な稲沢♪まるごと観光展」を開催した。（8月26日・27日、2022年2月22日・23日） ・多数のアクセス数を誇る愛知の公式観光Webサイト「Aichi Now」や愛知県観光協会公式サイト「あいちの観光ナビ」、愛知の旅まるごとマガジン「旬感観光あいち」への掲載による拡散効果を狙い、県及び県観光協会へ本市の観光・イベント情報を積極的に提供した。 ・県の観光事業や愛知のお城観光推進協議会への参画を通じて、愛西市及び愛西市観光協会と共同で「信長公生誕の地・勝幡城跡」のPR活動を展開した。 ①「サムライ・ニンジャフェスティバル2021」に出展。（11月21日／県営都市公園大高緑地）（御城印の販売など） ②「お城EXPO 2021」に出展。（12月18日・19日／パシフィコ横浜ノース）（来場記念特別御城印の販売、勝幡城CG復元動画の放映など） ③「にっぽん城まつり2022 feat.出張！お城EXPO in愛知」に出展。（2022年3月19日・20日／Aichi Sky Expo）（来場記念特別御城印の販売、信長ゆかりの地を巡るバスツアーの募集告知など） ・愛知・名古屋観光誘客協議会への参画を通じて、旅行事業者に「現地ガイドと巡る信長公生誕の地・勝幡城跡」「ぎんなんマイスターになろう！祖父江イチョウ黄葉ガイド付き散策」「日本で唯一の椿専門農園・ガイド付き園内見学と椿はちみつを試食体験」など、稲沢市の観光素材を活用した特別企画等を提案した。また、同協議会が主催する観光商談会(オンライン)に参加し、本市の企画を組み入れた旅行商品の造成を働き掛けた。 <p>【市・市観光協会・農商工事業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知・名古屋観光誘客協議会が夏期に展開した「あいち冷やし旅」キャンペーンに参画し、稲沢フルーツ園が「パッションフルーツ収穫とバナナアイスづくり体験」のほか、愛知のご当地かき氷クーポン「あいちスノーブーケ」の企画でオリジナルかき氷を提供し、集客に繋がった。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナ、アフターコロナにおける誘客促進に繋げるため、稲沢市の魅力スポットや飲食店を紹介する動画を作成し、稲沢市観光協会の公式Webサイト及びYouTube上で配信した。 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そぶえいチョウ黄葉まつり」は中止となったが、「祖父江ぎんなんマルシェ」や黄葉状況などについて多くのメディアから問合せや取材が相次いだ。これらに全面的に協力することで、今後のメディアプロモーションに向けた関係構築に努めた。 	<p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「い～な稲沢♪まるごと観光展」を定期開催していく。 ★目標／年2回開催 ・愛知のお城観光推進協議会及び愛知県大河ドラマ「どうする家康」観光推進協議会への参画を通じて、愛知県や愛知県観光協会、県内市町村等と連携した武将観光・お城観光を推進し、「信長公生誕地・稲沢市」の認知度向上と観光誘客に繋がるプロモーション活動を積極的に展開していく。 ・愛知・名古屋観光誘客協議会等への参画を通じて、愛知県、愛知県観光協会、運輸機関(鉄道会社等)との連携により、プロモーション活動や周遊促進施策を効果的に展開し、本市への更なる観光誘客に繋げていく。 ・観光商談会や観光展等への参加を通じて旅行事業者を始めとする観光関係者との関係強化に努めるとともに、来訪者ニーズを踏まえた観光素材の楽しみ方やテーマ性のあるコース提案などに取り組み、新たな旅行商品の造成を働き掛けていく。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いなざわ観光まちづくりメンバーである市内在住YouTuberとの連携により、稲沢ならではの地域資源(ひと・もの・こと)の魅力を発信する動画を撮影し、YouTubeで配信する。 ・豊田合成記念体育館(エントリオ)でプロスポーツチームの公式戦が今後も年間を通じて開催され、多くの来場者が見込まれる。試合観戦の前後に市内観光を楽しんでいただけるよう、来場者に向けておすすめ観光情報を提供していく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針3 観光を活用した地域経済が潤う仕組みの構築						
3	② 食の魅力づくり・お土産品の開発	<p>◆本市の食材や食品、食文化を活用したイベント等の際に、食材・食品のPRと合わせて生産者、販売者の“こだわり”等を情報発信することで、商品の付加価値を高め、販路の拡大につなげる。</p> <p>◆「食」の地域ブランド化を推進し、シティプロモーションのツールとして活用する。</p> <p>◆市民や来訪者が特産品をいつでも気軽に入手でき、さらに飲食や休憩などでもできる場所として、主要駅前周辺施設や商店街空店舗の活用、JAの共同直売所の充実をはじめ、交流拠点の整備について検討していく。</p> <p>◆各祭り・イベントにおいて稲沢市PRコーナーを設置し、来訪者が特産品を気軽に購入できる環境を整備する。</p>	稲沢市の「食」を活用したイベントの開催	短期 (1~3年)	<p>【市・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で祭り・イベントでの農産物・加工品の販売機会が限られた中、生産者が各自SNSを活用し“こだわり”を発信した。また、SNS等やネット通販を活用した農産物・加工品の販促方法など、時代に応じたこれからの6次産業の形を学ぶ「6次産業化研修会」を11月から12月にかけて全4回開催した。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめグルメガイドin稲沢」掲載店舗の協力を得て、「おすすめグルメシールラリー」を実施した。また、シールラリーの実施に合わせ、市民と共に稲沢市内の飲食店や特産品の魅力を発信する取組として、Instagram投稿キャンペーン「#いなざわグルメ」を実施した。（10月1日～12月31日） ・コロナ禍のため、従来実施してきた「地産地消おしゃれな料理教室」は参加者を募集せず、講師による「祖父江ぎんなん」の調理動画を撮影し、稲沢市観光協会の公式Webサイト及びYouTube上で配信する形とした。 ・コロナ禍で消費が落ち込む市内事業者に対して、「祖父江ぎんなんマルシェ」や「いなざわ梅まつり」、いなざわ観光まちづくりラボ主催のイベント「美濃路稲葉宿元気マルシェ」「ワンコインチャリティー四季の詩」会場での農産物・特産品の出店支援を行った。 ・コロナ禍で利用者が減少した市内飲食店舗を応援するため、稲沢市観光協会の公式Webサイト内で「テイクアウトできる店」を昨年度に引き続き特集掲載した。 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖父江ぎんなんパークで、ぎんなんグルメや和菓子、農産物、軽食、ドリンクの販売ブースが出店する「祖父江ぎんなんマルシェ」を開催した。（7月17日、10月16日、11月20日・21日・23日・27日・28日、2022年1月15日）（来場者数・累計71,350人） 	<p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で祭り・イベントでの出店機会が減少していることから、SNS等を活用して農業者の“こだわり”を発信できる場や民間業者や製造業者とのマッチングの場を設け、販路の拡大に繋げていく。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンを活用して市内のおすすめカフェ・スイーツ店を巡るデジタルスタンプラリーを実施する。 ・新鮮な稲沢産の食材を美味しくおしゃれに味わうためのイベントとして、「地産地消おしゃれな料理教室」を引き続き開催する。 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降も「祖父江ぎんなんマルシェ」を定期開催していく。
			特産品の認定及び販路拡大	短期 (1~3年)	<p>【市・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い近隣市町村で行われる多くのイベントが中止となる中、一宮市で開催されたイベントに参加し、稲沢の苗木を入学記念樹として配布した。また、「植木のまち・稲沢市」を明記したラベル（値札）を作成し、植木生産者に使用してもらうことで植木産業のPRに繋がった。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢グランドボウルで開催された全日本小学生ボウリング競技大会に出店し、特産品販売とパンフレット等による観光PRを行った。（8月21日） ・豊田合成記念体育館（エントリオ）で開催された男子プロバレーボールチーム「ウルブックス名古屋」のホームゲーム「ウルドタウン稲沢デー」に出店し、来場者に特産品やいなッピーグッズ等の販売を行った。（10月30日・31日） ・「国府宮はだか祭」の来場者に対し、市内生産者の協力の下、会場近くのJA愛知西国府宮支店の駐車場を利用して特産品の宣伝販売を行った。（2022年2月13日） ・「いなざわ梅まつり」において、特産品の販売コーナーを設置する。（2022年3月5日・6日） <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イチョウ黄葉の観賞に訪れた方に向けて、地元飲食店及び土産・特産品店の一覧表と地図を記載したパンフレットを作成し、配布した。また、同情報を商工会の公式Webサイトにも掲載し、PRに努めた。 	<p>【市・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市外のまつりにも引き続き出店し、植木、苗木の販路拡大につなげていく。 <p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市外から多くの来場者が見込めるイベントに幅広く出店し、本市の特産品や観光情報のPRを行っていく。 ・豊田合成記念体育館（エントリオ）でプロスポーツチームの公式戦が年間を通じて開催され、多くの来場者が訪れているので、併設のコンビニ「ヤマザキYショップ」での特産品販売、レストラン「&トレッセ」での银杏を活用したメニューの提供など、観光面での連携が図れるよう調整を進めていく。 <p>【稲沢商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等で幅広く特産品を紹介し、販路拡大に繋げていく。 <p>【祖父江町商工会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者に対し、「そぶえイチョウ黄葉まつり」「祖父江ぎんなんマルシェ」、県内外の物産展への出店を呼び掛けるなど、販路拡大に繋がる取組を推進していく。 <p>【JA愛知西】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA地産地消まつりで「祖父江ぎんなん」の販売を行う。また、各産直広場における販売促進にも引き続き取り組んでいく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針3 観光を活用した地域経済が潤う仕組みの構築						
					<p>【祖父江町商工会・農商工業者】 ・「そぶえイチョウ黄葉まつり」は中止となったが、イチョウ黄葉シーズンに開催した「祖父江ぎんなんマルシェ拡大版」を活用し、県内外から訪れた黄葉観賞者に対して、ぎんなんとぎんなん加工品のPR販売を行った。 （11月20日・21日・23日・27日・28日）</p> <p>【JA愛知西】 ・7月と11月に産直店舗においてJA地産地消まつりを開催した。</p>	
		稲沢市の特性を活かした土産品の開発		中期 (3～5年)	<p>【市観光協会】 ・「信長公生誕の地・勝幡城跡」への来訪記念グッズとして、御城印を制作販売した。</p> <p>・美濃路稲葉宿の来訪記念として、いなざわ観光まちづくりラボメンバーの発案で日本初の飛び出す象!!「美濃路稲葉宿御宿印」を製作し、美濃路稲葉宿本陣跡ひろば周辺の10店舗で販売した。</p> <p>【祖父江町商工会】 ・地域資源「イチョウ・ぎんなん」を活用した通年型商品の開発を検討するため、2020年度まで国の補助事業等を活用して調査・研究を行ってきた。しかし、2021年度から新規性・斬新性に加えて、確実に商品化できる事業者との連携が求められるようになり、一旦休止して連携先の模索や新たな補助制度などの検討を行っている。</p> <p>【平和町商工会・大学】 ・食を通じて平和町の桜のPRと地域の発展、新型コロナウイルスの感染拡大により落ち込んだ消費ニーズの起爆剤とするため、「桜」をテーマとした商品の開発に取り組んだ。開発に当たっては、愛知文教女子短期大学に依頼し、10商品のメニュー提案を受けた。この中の数点に加え、独自に開発した商品を取り扱う事業者が決定したため、近日発表する予定である。</p>	<p>【市観光協会】 ・「信長公生誕の地・勝幡城跡」への来訪記念グッズとして、新たに「信長公武将印」の作成に取り組む。</p> <p>【祖父江町商工会】 ・地域資源「イチョウ・ぎんなん」の更なる掘り起し、高齢化・後継者不足による生産者減少の食い止め、ぎんなんの小粒化・不作を補完する通年型商品開発への対応に努めていく。これまでの調査・研究の結果を基に、引き続き各団体と広く意見交換を行っていく。</p> <p>【平和町商工会】 ・愛知文教女子短期大学と連携しながら、引き続き新商品の開発に取り組む、桜グルメのメニュー展開を増やしていく。</p>
		「食」の地域ブランド化の推進		中期 (3～5年)	<p>【祖父江ぎんなんブランド推進協議会（JA愛知西・市・市観光協会・県・祖父江町商工会・農商工業者）】 ・「祖父江ぎんなん」の魅力発信と販売強化による消費拡大及びクレーム防止を目的に、愛知県農業生産力強化支援事業による産地戦略に基づき、「レシピ・保存方法」のリーフレット、「ぎんなんは生鮮食品です」チラシの作成に取り組んだ。作成したリーフレット等は通信販売やイベント販売時に活用した。</p> <p>・11月にイオンモール熱田で開催された愛知県の街道事業イベントに出展し、「祖父江ぎんなん」及び「祖父江ぎんなん街道」のPR活動を行った。</p> <p>【JA愛知西】 ・「祖父江ぎんなん」のブランド力向上及び販売力強化を目的に、既存の3出荷組織を統一し、新たに「JA愛知西祖父江ぎんなんブランド部会」を設立した。</p>	<p>【市・市観光協会】 ・コロナ禍で地域の元気が失われつつある中、「食」を通じて市民が楽しさや喜びを感じ、地域愛や地域の誇りを取り戻すキッカケとする。また、「食」をフックとした観光事業を展開することで、地域の新たな魅力を創出し、通年誘客と市内観光消費の増加に繋げるため、稲沢ならではの「ご当地グルメ」の開発に来年度から着手する。</p> <p>【市】 ・特産品のブランド強化及び6次産業化の推進に向けて、関係団体等と連携していく。</p> <p>【祖父江ぎんなんブランド推進協議会（JA愛知西・市・市観光協会・県・祖父江町商工会・農商工業者）】 ・「祖父江ぎんなん」のブランド強化に向けて、協議会の公式Webサイトでイベント・販売情報を発信するなど、更なる知名度向上と消費拡大を目指す。地域一体となって「祖父江ぎんなん」の魅力PRしていく。</p> <p>・「祖父江ぎんなん」の産地が抱えるボトルネックについて、あいち農業高度化プランナー事業に基づき、派遣プランナーから他業種のノウハウや他県の事例を踏まえた視点により改善提案を受けた取組（売上増に繋がる施策）を進めていく。</p> <p>【市・市観光協会】 ・「祖父江ぎんなん街道」の認知度を高め、現地への誘客に繋げるため、関係者に観光面での活用を働き掛ける。</p> <p>【祖父江町商工会】 ・「祖父江ぎんなん街道」の認定を活用して、ぎんなんを使った菓子、料理をはじめ、黄金色に染まる景色を楽しんでもらえるように情報発信に努めていく。</p>

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針3 観光を活用した地域経済が潤う仕組みの構築						
			生産者と消費者をつなげる交流拠点の整備	長期 (5年以上)	<p>【祖父江町商工会・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月にオープンした祖父江ぎんなんパークで、ぎんなんグルメや和菓子、農産物、軽食、ドリンクの販売ブースが出店する「祖父江ぎんなんマルシェ」を開催した。イチヨウ黄葉シーズンに開催された「祖父江ぎんなんマルシェ拡大版」では、県内外から訪れた黄葉観賞者に対して、ぎんなんとぎんなん加工品の販売を行い、大変な賑わいを見せた。 （7月17日、10月16日、11月20日・21日・23日・27日・28日、2022年1月15日） （来場者数：累計71,350人 ※うち拡大版：67,000人） <p>【市・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物出荷者及び団体がJA等の店舗において、産直出店を行った。 <p>【JA愛知西】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物出荷者を増やすため、生産者に産直施設のメリットをPRした。 	<p>【市・市観光協会・祖父江町商工会・JA愛知西・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖父江ぎんなんパークにおいて、「そぶえイチヨウ黄葉まつり」「祖父江ぎんなんマルシェ」の会場活用を始め、「ぎんなん・歴史・健康」をテーマに幅広い世代の人々が訪れ、多彩な交流が図れる拠点づくりを進める。 <p>【市・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産直販売について現在は不定期開催のため、リピーターとなる顧客の確保が難しい状況にある。そのため、定期開催もしくは次回開催日を周知できるようチラシの作成やSNS等の媒体を活用したPRを検討する。また、農業者団体の枠を超えて農業者間の横の繋がりを広げていく必要がある。 <p>【JA愛知西】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物出荷者を増やすため、生産者に産直施設のメリットを引き続きPRしていく。 <p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡尾張国分寺跡の保存整備計画を具体化していく中で、地域産業振興拠点としての「(仮称)ふれあい広場」の整備を関係部署と共に検討していく。
3	③ 観光施設の安全確保と利便性の向上	<p>◆子どもから高齢者、障害を持った方、外国人など来訪者の誰もが安心して観光施設を利用できるよう、施設の適正な維持管理に努める。</p> <p>◆バリアフリー化やユニバーサルデザイン化、Wi-Fi環境の整備を推進し、施設利用者の利便性向上を図る。</p>	<p>観光関連施設におけるWi-Fi環境の整備（再掲）</p> <p>観光関連施設の適切な維持・管理</p> <p>観光関連施設におけるバリアフリー化等の推進</p>	<p>中期 (3～5年)</p> <p>長期 (5年以上)</p> <p>長期 (5年以上)</p>	<p>⇒ <基本方針1> アクションプラン④「観光受入体制(おもてなし環境・おもてなし体制)の整備」・主な取り組み「観光関連施設におけるWi-Fi環境の整備」を参照。</p> <p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、施設の適切な維持管理に努めた。 ・「稲沢あじさいまつり」の会場である大塚性海寺歴史公園に植栽されているアジサイについて、1991年度の整備完了から約30年が経過し、大規模な植え替えが必要となっていることから、園内景観の保全のため2020年度から5か年かけて順次整備を行っている。 <p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖父江ぎんなんパークの整備に際し、バリアフリーに配慮した施設づくりを行った。 	<p>⇒ <基本方針1> アクションプラン④「観光受入体制(おもてなし環境・おもてなし体制)の整備」・主な取り組み「観光関連施設におけるWi-Fi環境の整備」を参照。</p> <p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが安心して観光施設を利用できるよう、引き続き適切な維持管理に努めていく。 ・大塚性海寺歴史公園に植栽されているアジサイについて、引き続き植え替え整備を行う。 <p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の主要観光施設における現状調査を順次行い、バリアフリー対応の実態把握に努める。把握できた情報は、稲沢市観光協会の公式Webサイト等に順次掲載していく。
3	④ 交通アクセスの充実・活用	<p>◆コミュニティバスなどの公共交通機関や民間事業者と連携したレンタサイクルの活用などを検討し、市内を広く周遊できる環境を整備する。</p> <p>◆鉄道事業者との連携をさらに進め、外部からの誘客を図る事業を企画・立案し、来訪・交流人口の拡大による地域の活性化へとつなげる。</p>	<p>稲沢市コミュニティバスの活用</p> <p>民間事業者と連携したレンタサイクル等の二次交通の開発・運営の検討</p> <p>鉄道事業者と連携した誘客促進</p>	<p>短期 (1～3年)</p> <p>中期 (3～5年)</p> <p>中期 (3～5年)</p>	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス路線の改訂に合わせて、市内観光マップ「コミュニティバスに乗って観光地へ行こう!!」をリニューアルした ・来訪者に対し、市内の主要観光スポットへの二次交通手段として、コミュニティバスの活用を促した。なお、元来観光客の利用を想定したバスではないため、時間帯によって本数が少ないことが課題である。 <p>未実施</p> <p>【市・市観光協会・農商工業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知・名古屋観光誘客協議会とJR東海が連携し、7月から9月にかけて展開した「冷やし旅」キャンペーンの企画として取り扱ってもらうため、稲沢フルーツ園の「パッションフルーツ収穫とバナナアイスづくり体験」を提案した。 <p>【市観光協会・交通事業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR東海に対してハイキングの実施を提案した結果、6月に大塚性海寺歴史公園・性海寺に立ち寄るJRさわやかウォーキングが企画されたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となった。 ・名古屋鉄道に対してハイキングの実施を提案した結果、名鉄ハイキングが国府宮駅スタートで実施された。稲沢市観光協会も参加賞の提供等で協力した。 （2022年1月22日）（参加者数：1,562人） ※9月にもハイキングが計画されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止。 	<p>【市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスを二次交通手段として効果的に活用できる方法を検討する。 <p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施に向けて調査研究していく。 <p>【市・市観光協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度も実施される「冷やし旅」キャンペーンに向けて、市内で楽しめる「冷やし旅」コンテンツの発掘と企画造成に取り組む。 ・愛知・名古屋観光誘客協議会等への参画を通じて、愛知県、愛知県観光協会、運輸機関(鉄道会社等)との連携により、プロモーション活動や周遊促進施策を効果的に展開し、本市への更なる観光誘客に繋げていく。 <p>【市・市観光協会・交通事業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年6月18日、19日に大里駅から国府宮駅間で名鉄ハイキングが計画されており、「稲沢あじさいまつり」会場が立ち寄りスポットとなっている。名古屋鉄道の協力により一定の集客が見込めるため、今後関係者と連携を図りながら、受入準備を進めていく。 ・JR東海と名古屋鉄道に対し、市内での新たなハイキングの実施に向けて、積極的な提案を行っていく。

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針3 観光を活用した地域経済が潤う仕組みの構築						
3	⑤ トイレ、休憩所、駐車場の整備及び案内	<p>◆市内を散策又はドライブ周遊する際に必要なトイレや休憩できる場所、駐車場について順次整備を進めるとともに、それらの情報を来訪者に分かりやすく提供する。</p> <p>◆各施設の整備に際しては、来訪者の誰もが安心して利用できるよう、</p>	<p>トイレ、休憩所、駐車場に関する情報提供</p> <p>トイレ、休憩所、駐車場の適切な整備</p>	<p>短期 (1～3年)</p> <p>中期 (3～5年)</p>	<p>【市・市観光協会】 ・トイレ、休憩所、駐車場の設置状況が把握できた施設から順次、稲沢市観光協会の公式Webサイトに情報掲載した。</p> <p>【祖父江町商工会】 ・祖父江ぎんなんパークのオープンに合わせてパンフレット及び園内マップを作成し、トイレ及び専用駐車場の情報を掲載した。</p> <p>【市】 祖父江ぎんなんパークの整備に際し、バリアフリーに配慮したトイレ及び駐車場を設置した。</p> <p>【市観光協会】 ・「国府宮はだか祭」の開催に際し、国府宮駅前ロータリーと名古屋文理大学文化フォーラム駐車場に仮設トイレを設置した。また、障がい者の社会進出支援の観点から、「いなざわ梅まつり」において、一般用の仮設トイレと共に車いす対応の仮設トイレを設置する。</p>	<p>【市・市観光協会】 ・市内の主要観光施設における現状調査を引き続き実施する。把握できた情報は、稲沢市観光協会の公式Webサイト等に順次掲載していく。</p> <p>【市】 ・各施設の適切な維持管理に努めていく。</p> <p>【市観光協会】 ・イベント時の仮設トイレの設置に今後も継続して取り組んでいく。</p>
3	⑥ イベント民泊の実施	◆国府宮はだか祭をはじめ多数の集客が見込まれる祭り・イベント時の交流促進や観光消費の拡大等につげるため、宿泊施設の不足解消に向けた一つの対策として、イベント民泊の実施について検討する。	イベント民泊の検討	長期 (5年以上)	未実施	【市・市観光協会】 ・実施に向けて調査研究を進めていく。
3	⑦ イベント・コンベンションの誘致	<p>◆東京オリンピック・パラリンピック競技大会や夏季アジア競技大会をはじめとする国際的規模のスポーツ大会の開催機会を捉え、スポーツ・文化の事前合宿やイベント・コンベンションを誘致し、地域経済の活性化につなげる。</p> <p>◆誘致に際しては、名神高速道路、東名阪自動車道などの高速道路ネットワークに近接した立地環境や名古屋市から鉄道で約10分圏内であるという利便性を強調するほか、本市にある実業団スポーツチームとも連携協力し、イベント・コンベンションの開催地としての魅力をアピールしていく。</p>	<p>アジア競技大会・ボウリング競技における開催地誘致活動の推進</p> <p>イベント(コンサート、発表会)・コンベンション(会議、集会、大会)の誘致</p>	<p>長期 (5年以上)</p> <p>長期 (5年以上)</p>	<p>【市】 ・進捗なし</p> <p>【市】 ・JR稲沢駅の東側に豊田合成記念体育館(エントリオ)が9月末にオープンした。当施設では、国内トップレベルのバレーボール、ハンドボール、バスケットボールの試合が開催されており、名古屋駅からJRで約10分というアクセス良好の立地もあって、観戦を目的に市外から多くの来場者が訪れている。</p>	<p>【市】 ・会場選定等の具体的なスケジュールが未だ示されていないため、関連イベントや会議等に積極的に参加しながら、機会を捉えて本市での開催をアピールしていきたい。</p> <p>【市・市観光協会・商工会議所・商工会】 ・誘致可能なイベント等を調査していく。</p> <p>【市観光協会】 ・豊田合成記念体育館(エントリオ)でプロスポーツチームの公式戦が今後も年間を通じて開催され、多くの来場者が見込まれる。施設の開放や併設のコンビニ「ヤマザキYショップ」での特産品販売、レストラン「&トレッセ」での銀杏を活用したメニューの提供や旅行商品への参画など、観光面での連携を図れるよう調整を進めていく。また、試合観戦の前後に市内観光を楽しんでいただけるよう、来場者に向けておすすめ観光情報を提供していく。</p>
3	⑧ 国際姉妹友好都市との交流による外国人観光客の誘致	◆東京オリンピック・パラリンピック競技大会や夏季アジア競技大会の開催を契機として、姉妹都市であるギリシャのオリンピア市や友好都市である中国の赤峰市との交流を促進し、相互理解を深めるとともに、外国人観光客の誘客を図る。	<p>ギリシャ共和国・オリンピア市ホストタウン推進事業</p> <p>国際友好事業</p>	<p>短期 (1～3年)</p> <p>中期 (3～5年)</p>	<p>【市】 ・東京オリンピックに合わせてオリンピア市から訪問団を受け入れる予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となった。また、オリンピックに出場するギリシャ人選手と市民との交流事業を実施する予定であったが、こちらも新型コロナウイルス感染拡大防止のため選手に厳しい移動制限が課されるなど、交流が困難となり中止となった。</p> <p>【市】 ・国際友好協会による「語学講座」「料理講座」等の開催支援を行った。</p>	<p>【市】 ・2021年度に「2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催されたことにより、ギリシャ共和国のホストタウンとしての取組も一区切りとなった。今後はホストタウン事業を通じて得られたギリシャ大使館等との繋がりを活かし、新型コロナウイルス収束後の交流促進方法について検討していく。</p> <p>【市】 ・外国人にとって魅力ある事業になるよう、国際友好協会主催事業の充実を図る。</p>

稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2021年度実績】

NO.	アクションプラン名	内容	主な取り組み	実施計画	2021年度の取組実績・進捗状況 【2022年2月末時点】	2022年度以降の取組方針（課題を踏まえて）
基本方針3 観光を活用した地域経済が潤う仕組みの構築						
3	⑨ 観光まちづくりに資する観光統計の充実	<p>◆地域づくりに資する指標と経済効果に関わる指標を併せて把握し、地域づくりと収益性の両面を満たした持続可能な観光まちづくりを目指す。</p> <p>◆ターゲットを絞ったプロモーションを実施し、市内への誘客につなげていくため、来訪者の属性や市内観光消費額、外国人観光客数等の必要な統計数値を各種調査により把握し、効果検証を重ね、事業の見直しと新規施策の企画立案に活用する。</p>	アンケート調査等による市民意識の把握	短期 (1～3年)	【市】 ・隔年調査のため、実施なし。 (前回調査：2020年度)	【市】 ・市政世論調査を実施予定。①「稲沢市の観光振興に対する市民満足度」及び②「稲沢市に対して誇りや愛着を持つ市民の割合」の把握に努める。
			来訪者等に対するマーケティング調査の実施	中期 (3～5年)	【市観光協会】 ・11月に開催された「祖父江ぎんなんマルシェ拡大版」の会場で、来場者553人(市外432人・市民121人)に対し、観光客動向調査を実施した。 (一人当たり観光消費額：1,966円) ・3月開催の「いなざわ梅まつり」会場で来場者にアンケート調査を実施し、来訪者の特徴と市内での一人当たり観光消費額の把握に努める。	【市・市観光協会】 ・今後も継続的にアンケート調査を実施し、観光客のニーズを把握することで、祭り・イベントの運営やプロモーション活動に反映し、持続的な集客に繋げていく。また、より精度の高い市内観光消費額の把握方法を調査研究し、観光を活用した地域経済が潤う仕組みの構築を目指す。
			観光に関する統計の整備	中期 (3～5年)	【市・市観光協会】 ・愛知県観光レクリエーション利用者統計に基づく観光入込客数の対象に含まれない市内の祭り・イベント、施設等の来訪者数について調査し、把握に努めた。	【市・市観光協会】 ・今後も継続的に来訪者数調査を実施し、検証を重ねることで、市内への効果的な誘客方法を探っていく。また、観光客の動向やニーズ、トレンド等、国や県が実施する観光統計調査の情報を把握し、稲沢への来訪促進や消費拡大に向けて活用していく。さらに、外国人観光客数を把握する有効な手法についても調査研究を進めていく。